



**飛躍への挑戦！**  
高知県産業振興計画

# 高幡地域アクションプラン 実行3年半の総括シート

## 「数値目標に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施

区分	評価基準	
A +		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成したもの → 目標の達成率（または達成見込率）が100%以上</li> </ul>
A	第3期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標をほぼ達成したもの → 達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満</li> </ul>
A -		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 達成率（または達成見込率）が60%未満</li> </ul>
B	第3期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの	
-	実績値がまだ出ていないなどの理由で現時点の評価ができないもの、または目標の設定がないもの	



【高幡地域アクションプラン 実行3年半の総括シート】

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上</b></p> <p>《須崎市、中土佐町、津野町》</p> <p>まとまりのある園芸産地づくりの推進や環境制御技術の向上などによる収量・品質の向上に努める。同時に、消費者からの安全・安心の要望に応えるために環境保全型農業を推進する。さらに、産地のこだわりを「見える化」した販売に対応したエコシステム栽培品目の増加などにより、販売額の維持・増加を目指す。あわせて、重油等の資材高騰への対応などの経営改善により農家の所得を向上させ、産地の安定的な発展を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・JA土佐くろしお</p>	<p>&lt;収量・品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び教えあう場による栽培技術や経営分析診断の指導（H28～）</li> <li>目慣らし会 H28：22回 H29：22回 H30：25回</li> <li>現地検討会 H28：14回 H29：18回 H30：9回</li> <li>勉強会 H28：5回 H29：6回 H30：7回</li> <li>・環境制御技術の推進</li> <li>現地実証圃調査 H28：56か所 H29：72か所 H30：43か所</li> <li>現地検討会 H28：1回</li> <li>勉強会 H28：1回 H29：12回 H30：5回</li> <li>啓発資料配付（H28～）</li> </ul> <p>&lt;生産コスト低減対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多層被覆や変温管理、重油代替加温機（ヒートポンプエアコン）の導入による省エネ対策の推進（H28～）</li> <li>現地実証圃設置H28：1か所</li> <li>排液処理・循環装置の実証H28：5か所</li> <li>地区説明会の開催H28：10回</li> </ul> <p>&lt;環境保全型農業の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IPM技術の推進</li> <li>主要8品目で取り組み、ししとう、きゅうり、みょうが、いんげんの現地実証圃を設置（H28～）</li> <li>IPM技術実証圃等の調査 H28：34か所 H29：15か所 H30：56か所</li> <li>啓発資料配付 H29：6,350部 H30：15,000部</li> </ul> <p>&lt;流通・販売上の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くろしお版GAPの推進（H28～H30）</li> <li>・高知県版GAPの推進（H30～）</li> <li>GAP研修会の開催 H30：2回→R元：2回</li> </ul>	<p>&lt;収量・品質向上対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹品目の収量・品質の向上</li> <li>⇒販売額の増加（園芸年度）</li> <li>・環境制御技術の推進によるハウス内環境制御技術への関心の高まり</li> <li>⇒環境測定装置導入戸数の拡大 H28：28戸→H29：119戸 →H30：165戸</li> <li>⇒炭酸ガス発生機導入面積 H28：10.4ha→H29：12.4ha →H30：11.5ha</li> </ul> <p>&lt;生産コスト低減対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地実証や説明会の開催等により、省エネ対策が推進された。</li> <li>⇒多層被覆や変温管理、重油代替加温機（ヒートポンプエアコン）の導入拡大。特に、重油代替加温機は、みょうが等の高温性品目を中心に導入が進んでいる。</li> <li>→H28～R元：83台（内みょうが78台導入）</li> </ul> <p>&lt;環境保全型農業の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要8品目で取り組んだ天敵実証圃が成功</li> <li>⇒ししとう栽培では、全戸で天敵を導入</li> <li>⇒きゅうり、みょうが、いんげん等でも天敵の有効性が認められ、IPM技術が普及しつつある。</li> </ul> <p>&lt;流通・販売上の対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要8品目でくろしお版GAP点検シートに取り組み、ほぼ定着</li> <li>⇒国のガイドラインに準拠した高知県版GAPへのバージョンアップが進みつつある。</li> <li>⇒JA土佐くろしおの4集出荷場で、高知県版GAPに沿った出荷場GAPが始まり、関係者の衛生管理に対する意識が高まった。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
主要農産物3品目 (みょうが、きゅうり、しし とう) 販売額 92億円 (H27: 85.6億円)	(R元年度末見込み) - (直近の実績) 93.5億円 (H30園芸 年度: H29.9月~ H30.8月)	A+	<p>学び教えあう場による栽培技術や経営分析診断の指導により、より良い栽培管理方法、環境制御による増収技術、天敵を用いたIPM技術、ヒートポンプエアコンによる燃油経費削減技術等、安定生産や増収技術と経費削減技術の普及が進んだ。</p> <p>併せて、栽培技術や経営分析診断の指導等により、主幹品目の収量・品質が向上した結果、H30園芸年度主要農産物3品目の販売額は、過去最高となった。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者や後継者の確保と育成</li> <li>・栽培基本技術の徹底、環境制御技術の向上やIPM技術等による栽培の安定と増収</li> <li>・生産コスト低減策の推進と普及</li> <li>・みょうが養液栽培における環境対策</li> <li>・高知県版GAPの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目慣らし会や現地検討会など学び教えあう場への参加を促すことによる新規就農者への継続指導及び後継者の育成</li> <li>・学び教えあう場や実証を活用した環境制御技術やIPM技術の向上と普及</li> <li>・重油代替加温機（ヒートポンプエアコン）等を活用したコスト削減技術の推進と普及</li> <li>・みょうが養液栽培の培地再生の改善</li> <li>・ガイドライン準拠県版GAP点検シートの取組周知による高知県版GAPの励行</li> </ul>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>2 JA土佐くろしおが担う地域農業の活性化</b></p> <p>《須崎市、中土佐町、津野町》</p> <p>JA出資農業生産法人を設立し、農作業受託等による地域の農業者の作業軽減及び農地の維持等を図る。</p> <p>また、「くろしお市」「みのり市」の2つの直販所を移転統合、拡充して、地域農産物や地元食材を生かした惣菜、加工品の販売を行い、農業者の所得向上を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)土佐くろしお村営みのり</li> <li>・JA土佐くろしお</li> </ul>	<p>＜作業受託面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうち農業確立総合支援事業 H28：2,532千円（トラクター等） H28：52,533千円（育苗施設）</li> <li>・農地・維持管理対策事業（市単） H29：2,900千円（コンバイン等）</li> <li>・複合経営拠点推進交付金 H30：5,189千円（田植機・防除機等）</li> <li>・アグリ事業戦略サポートセンター支援 H30：7回 R元：4回（予定）</li> </ul> <p>＜販売額の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産直市「とさっ子広場」整備（H27） 産業振興推進総合支援事業費補助金 H27：50,000千円</li> <li>・直販所活性化セミナー受講 H29：全3回</li> <li>・6次産業化セミナー実践コース受講 H30：全7回</li> </ul>	<p>＜作業受託面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA土佐くろしお管内の水稲耕作を受託する組織ができた。</li> <li>・既存組織と連携しながら、受託面積の拡大につながった。</li> <li>⇒新規雇用者：1名（臨時雇用）</li> </ul> <p>＜販売額の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーの受講等により、売り場改善や取扱商品の拡大に取り組み、販売額の増につながった。</li> </ul>
<p><b>3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化</b></p> <p>《中土佐町、四万十町》</p> <p>農業の基幹品目及び推進品目等の維持発展のために、収量・品質の向上、経営改善、環境制御技術の推進、販売促進などに取り組む。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知県（高西地区）</li> </ul>	<p>＜高品質多収生産技術の普及＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みょうがの養液栽培の導入（H29～）</li> <li>・環境制御技術（環境測定装置、炭酸ガス発生装置、ニラLED電照 等）の導入及び栽培技術の確立（H25～）</li> </ul> <p>＜環境保全型農業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天敵昆虫を利用した害虫防除技術の普及（H21～）</li> </ul> <p>＜新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談指導の実施（H21～）</li> </ul> <p>＜作業労働の省力・効率化及び適正な労働力の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しょうが栽培でのアルバイト確保への取組（H28～）</li> </ul>	<p>＜高品質多収生産技術の普及＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設みょうがでは、養液栽培への転換により土壌病害の発生が抑制された。</li> <li>⇒収量増</li> </ul> <p>＜環境保全型農業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設ニラや施設キュウリでは、環境制御技術の導入により10a当たりの収量が増加</li> <li>⇒目標を超える販売額となった。</li> </ul> <p>＜新規就農者の育成・確保及び農家の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代ハウスの（H28.7月栽培開始）効果や、担い手育成センターとの連携などによる新規就農者の確保</li> <li>⇒（H21～H29）220名</li> </ul> <p>＜作業労働の省力・効率化及び適正な労働力の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショウガアルバイトの確保</li> <li>⇒（H30）29名を10戸の農家とマッチング成約</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
全作業受託面積 10ha (H27: 5ha)	(R元年度末見込) 18ha  (直近の実績) 14.6ha (H30年度末)	A+	<p>&lt;作業受託面積の拡大&gt; 株式会社「土佐くろしお村営みのり」の設立 (H27) 及び、育苗センター、トラクター、田植え機、防除機等の整備や、既存組織とも連携し、オペレーターの確保と機械を効率的に活用することで、作業受託面積を拡大した。</p> <p>&lt;課題&gt; 部門別収支解析により、全作業受託部門が赤字であることが明確となったため、水管理等の簡易作業にかかるコスト削減と労力確保策の検討等が必要。</p> <p>&lt;販売額の向上&gt; 新たな産直市「とさっ子広場」の整備 (H27) 後、生産者に対する研修会・勉強会等の開催及び各種イベント等により、新たな販路・売り場として生産者・消費者ともに認知度が向上し、農業者の所得向上につながった。また、セミナーの受講等により売り場改善や取扱商品の拡大にも積極的に取り組んできた。</p>	<p>&lt;作業受託面積の拡大&gt; ・簡易作業（水管理等）の季節雇用 ・簡易作業（水管理等）の指導員育成</p> <p>&lt;販売額の向上&gt; ・農産物生産者の拡大 ・直販所で販売する総菜の充実 ・産地間連携の強化による高単価の果実等の商品の充実 ・JAグループ高知のとさのさとへの出荷等による外商拡大 ・手数料率の検討</p>
一部作業受託面積 54ha (H27: 28ha)	(R元年度末見込) 38ha  (直近の実績) 32.34ha (H30年度末)	A-	<p>&lt;課題&gt; 部門別収支解析により、全作業受託部門が赤字であることが明確となったため、水管理等の簡易作業にかかるコスト削減と労力確保策の検討等が必要。</p> <p>&lt;販売額の向上&gt; 新たな産直市「とさっ子広場」の整備 (H27) 後、生産者に対する研修会・勉強会等の開催及び各種イベント等により、新たな販路・売り場として生産者・消費者ともに認知度が向上し、農業者の所得向上につながった。また、セミナーの受講等により売り場改善や取扱商品の拡大にも積極的に取り組んできた。</p>	<p>&lt;課題&gt; ・農産物を中心とする取扱商品の拡充 ・商品分類ごとの手数料率の検討</p>
販売額 195,100千円 (H26: 77,185千円)  (参考) JA修正目標額 350,000千円 直販: 324,000千円 キイチ: 26,000千円	(R元年度末見込) 350,000千円  (直近の実績) 331,770千円 (H30年度末)	A+	<p>&lt;課題&gt; ・農産物を中心とする取扱商品の拡充 ・商品分類ごとの手数料率の検討</p>	
主要農産物（みょうが、にら、しょうが、ピーマン）販売額 27.5億円 (H27: 25.9億円)	(R元年度末見込み) 29.0億円  (直近の実績) 29.3億円 (H30園芸年度: H29.9月～H30.8月)	A+	<p>10a当たりの収量の増加、新規就農者とその育成、また高単価（主要農産物4品目の）といった要因により、目標年度前に目標値に到達した。 新規就農者の確保は、次世代団地等の雇用就農に負うところが大きい。 しょうがのアルバイトの成功は、他作物への波及が期待される。</p> <p>&lt;課題&gt; みょうがでは環境制御技術、特に炭酸ガスの効果が不安定であったり、施設ピーマンにおいて思ったほど増収効果が出ていないなど、原因を明らかにし対策する必要がある。</p>	<p>・環境制御技術の効果がでない（または不安定）な作物における増収抑制要因の把握と対策 ・みょうがやしょうがにおける土壌病害の防除 ・アルバイトの確保（継続）と他品目への波及の検討 ・農福連携の検討（協議会立ち上げ）</p>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>4 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立</b></p> <p>《栲原町、津野町》</p> <p>園芸基幹品目において、平坦地域と遜色ない所得を得る生産規模の確保、栽培技術向上、有利販売の取り組みを推進する。</p> <p>また、安定的な所得を得る複合経営（農業、林業、直販所出荷、農林産物加工を含む）を確立し、地域内への波及を図る。</p> <p>【事業主体】 ・JA高知県（高西地区）</p>	<p>＜基幹品目の生産安定＞ ＜補完品目の生産安定＞</p> <p>・津野山地域営農連絡協議会及び津野山地域営農連絡会の開催 H28：7回 H29：7回 H30：15回</p> <p>・栽培講習会・現地検討会 H28：38回 H29：13回 H30：5回</p> <p>・実証ほ H28：15か所 H29：11か所 H30：4か所</p> <p>＜協業経営の安定的運営と地域への波及＞</p> <p>・複合経営に関する協議 H28：19回 H29：27回 H30：28回</p>	<p>＜基幹品目の生産安定＞</p> <p>・10a当たり販売金額の大きなみょうがへの品目転換が進むとともに、みょうがにおいては土耕栽培から10a当たり収量が高く、また、土壌病害発生時の被害が少ない養液栽培への変更が進んだ。 ⇒販売額の増につながった。</p> <p>＜補完品目の生産安定＞</p> <p>・加工用わさびの栽培面積は減少したものの、ゆずの成木化による出荷量が増大した。 ⇒補完品目の販売金額の増大が見込まれることとなった。</p> <p>＜協業経営の安定的運営と地域への波及＞</p> <p>・協議を通じて、10a当たり販売金額の大きなみょうがを生産する農家が増加 ⇒所得400万円以上の農家数の増加につながった。</p>
<p><b>5 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>須崎市浦ノ内地区産の葉にんにく、国産の麦味噌、白味噌を使用したぬたを生産しており、東京の料亭やホテルなどに販売している。今後、契約農家等での増産を行い、新商品の開発に取り組むとともに販路の拡大を行う。</p> <p>【事業主体】 ・(株)アースエイド</p>	<p>＜生産の拡大＞</p> <p>・収穫工程の見直しによる作業の効率化</p> <p>・新商品開発に向けた産業振興アドバイザーの招へい（3回）（H30）</p> <p>・加工施設整備 すさきがすさき産業振興推進総合支援事業費補助金 H28：1,000千円</p> <p>ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金採択（期間H30～35）</p> <p>＜県内外での販路拡大及び海外市場への販路開拓＞</p> <p>・販路開拓に向けた商品コンセプトについて産業振興アドバイザーの招へい（2回）（H28）</p> <p>・展示商談会への出展 H28：12回 H29：10回 H30：1回</p> <p>・海外市場販促活動 H28：4回 H29：3回 H30：2回</p>	<p>＜生産の拡大＞</p> <p>・アドバイザー等の活用による、商品開発のノウハウ獲得及び社員の人材育成が図れた。 ⇒新商品開発2品</p> <p>・急速冷凍設備の導入 ⇒生産体制の強化充実により、増産が可能となった。</p> <p>＜県内外での販路拡大及び海外市場への販路開拓＞</p> <p>・新規取引店の開拓 H28：27件 H29：17件 H30：8件</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
主要農産物5品目 (みょうが、土佐甘とう、 ししとう(露地・雨よ け)、米なす、小なす) 販売額 3.2億円 (H26: 2.7億円)	(R元年度末見込) 3.7億円  (直近の実績) 3.7億円 (H30年度 末)	A+	標高が高い当該地域においては夏期の夜温が低く、 出荷物の品質が維持できている。そのため60歳代以 下の農家が積極的に半促成作型の養液栽培みょうが の栽培に取り組むことができた。また、生産者によるパッ ク詰め作業が不用で軽量である甘とうも高齢者を中心 に栽培農家数が増加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要5品目の内、近年生産者数が増大しているみょうがと甘とうを重要品目と捉え、集中的に巡回指導に取り組む。</li> <li>・搾汁用ゆずは地域の財産として津野山地域営農連絡会などで園地の状況を共有する。栽培管理～収穫作業が困難となった園地については新たな園主への園地の移譲などに取り組んでいく。</li> </ul>
農業分野補完品目 (ゆず、加工用わさ び) 販売額 20,000千円 (H26: 8,099千 円)	(R元年度末見込) 19,000千円  (直近の実績) 21,265千円 (H30年 度末)	A	搾汁用ゆずの植え付けは、H20年頃を中心に始まっ た。当時すでに産地全体に高齢化の動きはあったが、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培が容易であること</li> <li>・出荷先が確定していること (JA馬路村)</li> <li>・園主が将来収穫できなくなっても次の世代に財産として受け継ぐことができること</li> </ul> などから、現在も新たな園地が広がっている。H30.1～ 2月の低温による凍害で枯死した株もあるが、全体とし て出荷量は順調に増えている。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去には「津野山地域主要5品目」と言われてきたが、栽培管理～調整・出荷に手間がかかるために面積が広がられない小なす・ししとうや、一果重が大きく高齢者には負担の大きい米なすは栽培面積が減少し続けており、今後もこの傾向は変わらない見込みである。</li> <li>・津野山地域に地縁・血縁の無い人物が就農しようとした場合 (Iターンなど)、栽培期間が夏秋の品目がほとんどで冬場の現金収入のあてがない。そのため、収穫が困難となったゆずなど永年作物がすでに定植されているほ場を移譲してもらえば、無理なく農家所得を向上することができる。</li> </ul>	
所得400万円以上の 農家 8戸 (H26: 6戸)	(R元年度末見込) 11戸  (直近の実績) 13戸 (H30年度末)	A+	催事や展示会への積極的な参加と補助金等を活用 した生産体制の強化により、新規の取引件数が大幅 に増加しており、H30売上額はR元目標を約35%も 上回って達成している。平成31.4月には新規高卒者 の採用も行っており、今後地域産業として今後の取組 が期待される。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候等により不安定になる原材料生産</li> <li>・インターネット等を利用した消費者への直接販売の拡充</li> </ul>	
売上高 40,000千円 (H26: 5,719千 円)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 54,183千円 (H30年 度末)	A+	催事や展示会への積極的な参加と補助金等を活用 した生産体制の強化により、新規の取引件数が大幅 に増加しており、H30売上額はR元目標を約35%も 上回って達成している。平成31.4月には新規高卒者 の採用も行っており、今後地域産業として今後の取組 が期待される。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候等により不安定になる原材料生産</li> <li>・インターネット等を利用した消費者への直接販売の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料安定確保に向けた専属契約の提案など、さらなる生産体制の充実強化</li> <li>・展示商談会等で得られた顧客ニーズをふまえた商品開発及び改良</li> <li>・継続的な商談会等の情報提供及び土佐MBAなどEC講座の情報提供</li> </ul>



項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>6 大野見米のブランド化</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化をキーワードとして、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおのみエコロジーファーマーズ</li> </ul>	<p>＜生産組織の充実、生産の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおのみエコロジーファーマーズ総会の開催（毎年・1回開催）</li> <li>・執行委員会の開催（H28：3回、H29：4回、H30：6回、R元：5回見込）</li> </ul> <p>＜環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場の巡回指導 H28：1回 H29：7回 H30：6回 R元：6回（見込）</li> <li>・現地検討会 H28：1回 H30：4回 R元：2回</li> <li>・環境保全活動に関するコンクール応募</li> </ul> <p>＜高付加価値米の販路拡大と販路の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米コンクール等への応募による意識醸成 H30 候補圃場選定（8圃場） →米コンクール出品圃場選定（2圃場） →2ヶ所へ応募 R元 2ヶ所見込</li> <li>・教育現場との交流活動 H28：4回 H29：9回 H30：8回 R元：8回（見込）</li> <li>・定期的なホームページ更新による取組のPR H29：31回</li> </ul>	<p>＜生産組織の充実、生産の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会や執行委員会を通じて、組織力が強化された。 ⇒H28:生産者の増加（6→7名）</li> </ul> <p>＜環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良質米生産のための適切な肥培管理、病害虫防除について勉強会を通じて理解が深まった。 ⇒栽培面積の拡大 H27：9.7ha H28：9.9ha H29以降:11.3ha</li> <li>・エコ米販売量 H28：20t H29：18.5t H30：9t</li> <li>・コンクール応募を通じ、環境保全活動に対する意識がメンバー内で高まった。</li> </ul> <p>＜高付加価値米の販路拡大と販路の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30コンクールは一次選考で落選したものの、応募をきっかけに県内外の米農家との情報共有が図られた ⇒次回コンクール出品、目標設定に向けて意識の醸成が図れた。</li> <li>・教育現場との交流活動 H28：延べ186名 （うち大学生175名、教員11名） H29：延べ170名 （うち大学生160名、教員10名） H30：延べ127名 （うち大学生120名、教員7名） ⇒高知県立大学と地元小中学校との交流活動により、大野見地域の活性化につながっている。</li> <li>・ホームページによるアクセス数 H28：延べ10,646回 H29：延べ12,421回</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
工口米販売量 27t (H27 : 12.9t)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 9t (H30年度)	B	<p>組織活動としては、方向性などを話し合いながら進めていくことができています。H30は2等級より下の米（3等級など）が多かったこともあり、品種別に栽培暦の変更を行うと共に、現地での栽培管理の徹底などを実践して、「四万十の清粒 特裁 大野見米」の生産量を増やすことを目指している。</p> <p>販路拡大については、教育現場との交流を通じて、新たな販路ができるなど、一定の成果があった。引き続き活動を継続していきたい。</p> <p>米のコンクールへ出品し、高付加価値米を目指しているが、まだ充分には成果が出てきていない。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の確保、作付け面積の拡大</li> <li>・大野見米の高付加価値化（ブランド化）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコロジーファーマーズの取り組み周知により生産者を拡大していく。</li> <li>・作付け面積の拡大に向けた営農指導。</li> <li>・米の高付加価値化に向けたブランド力向上（コンクール等への出品や新たな取組の検討）</li> </ul>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>7 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大</b></p> <p>《梶原町》</p> <p>梶原町内で生産されているキジの品質向上等のために飼育環境の改善を行い、飲食店や百貨店等への販路拡大の取り組みを行うとともに町内飲食店での消費の向上を図る。また、生産者の所得の向上を図り、後継者の育成を行う。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町雉生産組合</li> <li>・梶原町</li> </ul>	<p>＜品質の向上と出荷体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27に導入をした熟成用恒温高湿庫・冷凍庫により熟成をした高品質なキジ肉の販売開始</li> </ul> <p>＜販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県主催の畜産商談会に参加（H27～H28）</li> <li>・大阪での商談会「土佐の宴」に参加（H28）</li> <li>・県主催の県産品商談会に出展 H28：1回 H29：1回 H30：2回</li> <li>・まるごとうち商談会への出展 H30：1回</li> <li>・県版HACCP第2ステージ認証取得に向けた取組（H28～）</li> <li>・業務筋等への直接営業</li> <li>・産振アドバイザー招へい（H30：5回）</li> <li>・販路開拓のための新商品開発</li> <li>・SNSを活用した情報発信</li> </ul> <p>＜地元でのキジ肉消費向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キジグルメの開始（H26～）</li> <li>・梶原町観光開きやグルメまつり等の町内イベントへの出展</li> </ul>	<p>＜品質の向上と出荷体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原産熟成肉としての取引先が開拓できた。</li> </ul> <p>＜販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商談会への出店や営業による取引先の開拓 ⇒H29年度までの取引先：65社 H30年度新規取引先：10社</li> <li>・産振アドバイザーを活用した新商品開発 ⇒ガラを活用した新商品（レトルト）を開発予定</li> </ul> <p>＜地元でのキジ肉消費向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雲の上のキジグルメの展開及び町内イベントへの継続的な出店によるPR ⇒梶原町の特産品として卸会社との取引につながった。</li> </ul>
<p><b>8 肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化</b></p> <p>《梶原町》</p> <p>畜舎等を整備拡充し、生産飼育体制の安定・強化を図ることにより、（一社）津野山畜産公社による夏のカルスト放牧の継続、一貫生産飼育体制（繁殖牛、子牛、肥育牛の飼育）の構築を目指す。また、飼育頭数の増加による雇用の創出や地域産業の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人津野山畜産公社</li> <li>・梶原町</li> </ul>	<p>＜組織体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（一社）津野山畜産公社とJAの畜産部門が合併</li> </ul> <p>＜畜舎等の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国補助金と産振総合補助金を活用した繁殖肥育畜舎の建設・完成（H29：206,237千円）</li> <li>・事務所、子牛畜舎及び分娩畜舎完成（H30）</li> </ul> <p>＜飼育頭数の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖牛の導入（H29～）</li> </ul> <p>＜梶原町産牛肉の認知度向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆすはらグルメまつり・土佐牛まるかじり大会でのPR（H28～）</li> <li>・県主催の県産品商談会のチャレンジコーナーに出展（H30）</li> </ul>	<p>＜組織体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（一社）津野山畜産公社とJAの畜産部門が合併 ⇒新規雇用1名（H30年度退職者の補充）</li> </ul> <p>＜畜舎等の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖肥育畜舎、子牛畜舎等の整備による飼育可能頭数の拡大</li> </ul> <p>＜飼育頭数の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖牛の導入 H29：50頭→H30：92頭</li> </ul> <p>＜梶原町産牛肉の認知度向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R元年度県産品商談会本ブースへの出展を検討</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
販売額 22,000千円 (H26 : 14,367千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 14,584千円 (H30年度末)	A－	<p>熟成用恒温高湿庫の導入により、高品質な熟成肉の出荷が可能となり、高級ホテルやレストランなど、新たな取引先の開拓ができた。</p> <p>また、展示商談会等への積極的な出展や営業等により、取引件数は増加しているものの、取引先の事業縮小や送料の高騰などが影響し、販売額の増加につながっていない。また、奥四万十博のイベント後の反動で梶原町への来訪者が減ったことも要因と考えられる。</p> <p>一方で、新たな展開として、H30年度に導入した産振アドバイザーの助言により、かねてから課題であった「ガラ」を活用した商品開発と販売先の開拓が同時に進んでおり、今後の販売増加が望まれるところである。また、県版HACCPの第2ステージ認証取得に向けて、R元年度に2回目の現地HACCPアドバイザーを派遣する予定としており、本年度の認証取得を見込んでいる。</p> <p>&lt;課題&gt; 生産者の高齢化により、今後生産羽数の減少が懸念される。新商品の開発及び更なる販路拡大により組合員の所得を確保するとともに、生産組合の経営を安定化することが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガラ」を活用した新商品の展開</li> <li>・新商品のパッケージ及びチラシ作成</li> <li>・イベント用に「チキンナゲット」の開発を検討</li> <li>・展示商談会等への継続的な出展</li> </ul>
出荷頭数 136頭 (H27 : 105頭)	(R元年度末見込) 136頭  (直近の実績) 92頭 (H30年度末)	A＋	<p>繁殖肥育畜舎、子牛畜舎及び分娩畜舎の整備により、飼育頭数の大幅な増頭が可能となり、地域内畜産農家への安定的な子牛の供給が可能となった。</p> <p>&lt;課題&gt; ・繁殖用・肥育用子牛の高騰による地域畜産農家の負担増への対応 ・梶原町産牛肉の「カルスト牛」としての認知度の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおりの増頭を行い、安価な繁殖牛及び子牛の供給を行うことにより、地域内畜産農家の経営基盤の安定化を図る。</li> <li>・商談会への積極的な出展等により、「カルスト牛」の認知度を高め、他の牛肉との差別化及び市場価格の高水準化を目指す。</li> </ul>
販売額 131,143千円 (H27 : 100,969千円)	(R元年度末見込) 139,477千円  (直近の実績) 101,974千円 (H30年度末)	A＋		

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>9 つの茶販売戦略</b></p> <p>《津野町》</p> <p>四万十川源流域でとれた茶にこだわり、原材料から製品まで一貫して生産加工した茶製品の販売拡大により、荒茶販売単価を引き上げ、生産所得を向上し、茶産地の維持を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知県（高西地区）</li> <li>・津野町</li> </ul>	<p>＜販売体制の強化＞</p> <p>（つの茶販売戦略計画の策定と実行）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)はりま家とのOEM連携による商品開発（H28）</li> <li>・ゆるキャラグランプリ「しんじょうくん」ペットボトルの販売開始（H29～）</li> <li>・キリンビール高知支店との連携協定事業の開始（H29～）</li> <li>・海外市場（台湾・シンガポール）のマーケティング調査（H28販路開拓支援事業助成金）</li> <li>・商談会への出展（H29～FOODEX、SMTS）</li> <li>・ツノチャマルシェの開催（H28～）</li> </ul> <p>＜茶工場の運用＞</p> <p>＜クリーンルームの活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県版HACCP第2ステージ認証取得（H29）</li> </ul> <p>＜生産の維持・茶園の保全＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉山地域への茶アドバイザーの導入（H30）</li> <li>・自走式茶園管理機の導入（H30土佐茶産地育成事業）</li> <li>・地域おこし協力隊の着任 1名</li> </ul>	<p>＜販売体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の開発数 3シリーズ17品</li> <li>・展示商談会への出展数11回（うち海外4回）</li> </ul> <p>⇒ハワイマルカイにて上級煎茶の定期販売が開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリンビール高知支店との連携</li> </ul> <p>⇒津野山ビール導入店H28 33店→H30 50店</p> <p>＜茶工場の運用＞</p> <p>＜クリーンルームの活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29高知県茶品評会にて、最優秀賞から上位5位まで津野山茶生産組合が独占受賞した。</li> </ul> <p>＜生産の維持・茶園の保全＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放棄茶園の再生 約2ha</li> </ul>
<p><b>10 みどり市を核とした「地消地産」の推進</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>みどり市の「産直コーナー」での野菜等の農産物の品揃えの強化や加工品の開発、さらに「手づくりキッチン」での弁当や惣菜の充実で販売額の増加を図り、地消地産による地域の農業者の所得向上を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA高知県（高西地区）</li> </ul>	<p>＜「産直コーナー」の販売拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業塾の開催などによるみどり市の販売部会員数の確保</li> <li>・運営検討会の開催や継続的な栽培技術支援による農産物の品揃えの充実</li> <li>・みどり市産直の運営に係る検討会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>H28：11回 H29：18回</li> <li>H30：12回</li> </ul> </li> <li>・農業塾の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>H29：8回 H30：9回</li> </ul> </li> <li>・地消地産プロジェクト会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>H30：11回</li> </ul> </li> </ul> <p>＜「手づくりキッチン」の販売拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手づくりキッチンの運営に係る検討会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>H28：26回 H29：12回</li> <li>H30：12回</li> </ul> </li> <li>・集客力アップ <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザー招へい1回（H29）</li> </ul> </li> <li>・利用客アンケートと新メニュー開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学との連携（H29・30・R元）</li> </ul> </li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所活性化セミナー参加（H29）</li> <li>・活性化プラン作成（H29）</li> </ul>	<p>＜「産直コーナー」の販売拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり市の販売部会員数（生産者）の増加</li> </ul> <p>⇒部会員数 H26：389名→R元：403名（見込）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の品揃えの充実</li> </ul> <p>⇒農業者の収益向上につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後（H26.4月オープン）の客数が平成30.5月に100万人を突破</li> </ul> <p>⇒レジ通過客数 145万人（R元見込み）</p> <p>＜「手づくりキッチン」の販売拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振アドバイザーの活用による集客イベントの企画・広報や、大学と連携した新メニューの開発・提供</li> </ul> <p>⇒集客力がアップし、販売額が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員は当初非正規雇用であったが、正規雇用へと移行した。</li> </ul> <p>⇒雇用の創出（H28～R元見込） 11名（正規10名、非正規1名）</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
茶製品販売額 34,000千円 (H26 : 13,596千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 32,008千円 (H30年度末)	A	つの茶販売戦略の取組により、JAや(株)満天の星が荒茶の買い支えをおこなうことで、茶農家の収入維持につながる直接還元ができています。 また、催事や展示商談会等への積極的な出展、PRにより、茶製品の販売促進につながっている。 茶工場の整備により、荒茶の品質が向上するとともに、地域おこし協力隊の導入や企業連携がすすむなど、茶園の維持、放棄茶園の再生に取り組んでいる。	・茶園のマップ化とトリアージなど、計画的な生産管理による生産量の維持 ・摘み取り作業の機械化、担い手の確保など、生産体制の充実強化 ・かぶせ茶や釜炒り茶など、市場価格に影響されにくい製品づくりと展示商談会への出展等による販路の確保 ・顧客ニーズをふまえた商品開発及び改良
荒茶販売額 54,000千円 (H26 : 51,218千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 40,392千円 (H30年度末)	B	<課題> ・(株)満天の星による販売促進がすすむ一方で、茶農家の高齢化により生産量の維持が困難になってきている。 ・茶園の維持と放棄茶園の再生を図るための担い手の確保 ・茶農家の安定的な所得の確保	
「産直コーナー」の販売額 300,000千円 (H26 221,286千円) ※肉類の販売額含む	(R元年度見込み) 240,000千円  (直近の実績) 238,194千円 (H30年度末)	A－	みどり市の販売部会員数（生産者）の増加や、全国のJAファーマーズマーケット（JA紀の里、JAおきなわ等）との連携などにより、「産直コーナー」の販売額は増加したがR元の目標額には届かなかった。 一方、「手づくりキッチン」は新メニューの開発や、イベント開催等による集客力アップの取組などにより、H30販売額はR元の目標を大きく上回って達成している。なお、みどり市の営業利益は黒字で推移している。	・「産直コーナー」へ農産物を出荷する生産者の掘り起こしと生産拡大 ・「手づくりキッチン」の継続的な新メニューの開発と集客力アップに向けたイベントの開催
「手づくりキッチン」の販売額 35,000千円 (H26 : 30,047千円)	(R元年度見込み) 43,000千円  (直近の実績) 42,310千円 (H30年度末)	A+	<課題> ・販売部会員は、取組開始時に比べて増加しているがH28をピークに減少しており、農産物を出荷する生産者の確保が課題となっている。 ・土日、祝日の集客力が他の施設（道の駅など）と比べて弱い。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>11 四万十の栗再生プロジェクト</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新技術の導入や民間直営農場等の担い手の育成、労働力補完の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、貯蔵や加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連（四万十の栗プロジェクト）</p>	<p>&lt;生産拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良品種への新改植推進</li> <li>・特用林産生産基盤支援事業（町単：栗苗木植栽支援）による新改植の取り組み（H28～）</li> <li>・低樹高モデル園育成調査、出荷目慣らし会、現地講習会を通じた新改植の推進（H28～）</li> </ul> <p>&lt;担い手育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特選栗認定農家の拡大、栗せん定士の育成</li> <li>・四万十の栗剪定補助事業（町単）による技術支援の取り組み（H28～）</li> <li>・低樹高モデル園育成調査、特選栗園地巡回を通じた推進（H28～）</li> </ul> <p>&lt;ブランド化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発、販路の開拓</li> <li>・「しまんとおちゃくりカフェ」での新商品開発（H28以降：12商品）</li> <li>（紅茶マドレーヌ、アイスモンブラン、栗プリン他）</li> </ul> <p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまんと新一次産業で産地パワーアップ事業を導入し、1.5次加工施設を整備（H29.9月）</li> </ul>	<p>&lt;生産拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苗木の補助事業を活用した新改植が進んだ。</li> <li>⇒植栽苗木本数 H28：962本、H29：1,485本、H30：814本</li> </ul> <p>&lt;担い手育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栗技術チーム会による栽培指導体制が整った。</li> <li>⇒特選栗認定農家（R元見込み：29経営体）</li> </ul> <p>&lt;ブランド化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.8月に四万十ドラマの直営店「とわ」がオープン（H31.4月リニューアル）</li> <li>・しまんとドラマの新加工場がR元.12月に着工予定</li> <li>⇒おちゃくりカフェ雇用者数</li> <li>R元：正規8人、非正規3人</li> </ul> <p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工施設の整備により、安定的な加工商品の生産に向けた体制が整った。</li> <li>⇒ペースト加工量（実績）</li> <li>H29：5t H30：14t</li> </ul>
<p><b>12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>滞在型市民農園の機能強化やお試し滞在施設の整備などを行い、窪川、大正、十和の3地域ごとに地域との交流を含めた受入体制を整えとともに、移住希望者等のニーズに沿った支援策を実施し、四万十町全体で移住につながりやすい風土づくりを目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町</li> <li>・営農支援センター四万十(株)</li> </ul>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県移住促進事業費補助金</li> <li>→滞在型市民農園（H21・24 滞在型：22棟、日帰り型：16区画）を整備</li> <li>→お試し滞在施設（H24・28：3施設）</li> <li>→中間管理住宅（H26～29：22件）</li> <li>→移住支援住宅（H28・29：5室）</li> </ul> <p>&lt;移住定住につながる仕組みづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県移住促進事業費補助金</li> <li>移住相談員の設置</li> <li>・移住フェア・相談会等への参加（H27～25回）</li> <li>・奥四万十地域移住定住促進協議会（H28）</li> <li>・東京オフィスの開設（H30.6月）</li> </ul>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した施設（滞在型市民農園）を活用し、イベントを積極的に開催することで、住民との交流が促進された。</li> <li>・短期から長期利用の可能施設を整備することで、移住希望者のニーズに沿った対応が出来た。</li> <li>⇒多様な町内施設の整備により移住者の増加につながった</li> </ul> <p>&lt;移住定住につながる仕組みづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住相談員の設置</li> <li>・東京オフィスの活動</li> <li>四万十町応援女子部</li> <li>（ツアー開催、SNS広報等）</li> <li>（株）ぼど</li> <li>（フリーペーパー掲載、地域おこし企業人として招へい）</li> <li>⇒移住促進体制の確立により、施設稼働率の上昇、移住者の増加につながった。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
原材料供給量 (JA集荷量) 45t (H26: 17t)	(R元年度見込) 40t  (直近の実績) 13.9t (H30年度末) 39t (H29年度末)	A	四万十の栗再生プロジェクト推進協議会が母体となり、生産量の拡大のため苗木の補助や低樹高せん定技術の普及などに取り組んできた。H30年度は気象要因により生産量が落ち込んだものの、徐々にJAの集荷量は増加してきた。 ペースト加工場が整備され、安定生産に向けた体制が整い、栗商品などの売上げも増加している。	・苗木や剪定の補助により、引き続き栗の新改植を推進する ・低樹高せん定技術の普及による生産量の拡大（作業班の整備などせん定技術の普及に向けた体制づくり） ・1.5次加工（ペースト加工）と連携して、四万十ドラマにおいて（新加工場 R元.12月着工予定）新商品の開発及び販路を拡大していく
加工品売上高 (おちゃくりカフェ加工品) 100,000千円 (H26: 33,320千円)	(R元年度見込) 100,000千円  (直近の実績) 88,601千円 (H30年度末)	A+	<課題> ・高齢化等による耕作放棄地の増大 ・栗園の老木化 ・鳥獣被害による収穫量の減少 ・高品質なペーストの安定生産 ・新商品の開発と販路の拡大	耕作放棄地→上記・新改植の推進 安定生産→上記・低樹高剪定技術の普及による生産の拡大
施設稼働率 滞在型市民農園 (H22～27: 滞在型 99%、日帰型 91.7%) 97.4% (H26: 97.4%)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 86.8% (H30年度末)	B	第1～3期で行った各施設整備及び機能強化とそれらの継続した運営管理、移住相談員の設置など町内の受入環境を整えることにより、施設の稼働率も高く結果として、目標を大きく上回る移住者の実績を上げている。 また町外においても、東京都内へ開設した町オフィスの活用（広報発信、町へのツアー開催等）など、積極的に受入体制を構築していることから、施設稼働率及び移住者数の増加につながっている。	・東京オフィスを最大限に活用した移住・定住の促進（広報、ツアーやオフ会の開催 等） ・転出者対策の検討
移住者数 年間20組（40人） (H26: 17組（27人）) ※四万十町窓口を通して移住された方	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 132組177人 (H30年度末)	A+	<課題> 移住者数は増加したものの伸び率が落ちてきていること、また転出者が多いので、移住施策に加え転出者対策が必要である。	



項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>13 地域資源活用推進と加工場等の整備</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十町の地域資源を広く活用し付加価値を付けた加工品の開発に取り組むとともに、高品質で安定的な供給体制を確保できる拠点的な加工施設を整備することにより、農林水産業所得の向上と雇用の確保につなげる。</p> <p>【事業主体】 ・四万十町</p> <p>※地域産業クラスター関連（四万十ポークブランド推進プロジェクト）</p>	<p>＜地域資源の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興アドバイザーの招へい（H26～28） 地域資源の磨き上げ（生姜の調査研究）と掘り起こし（枝豆の試験栽培～試験販売）</li> </ul> <p>＜加工施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本設計の策定（町単）（H29）</li> <li>実施設計の策定（町単）（H30）</li> </ul> <p>・地場産業振興センターの新加工場整備（R元年度未完成予定） 産業振興推進総合支援事業費補助金（R元：特別承認事業 交付決定） 総事業費：506,994千円 産振補助金：50,000千円</p> <p>＜商品開発と販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発：各種セミナー受講（H30）</li> <li>・販路開拓：商談会等への出展（H30）</li> </ul> <p>＜運営体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町地域資源活用協議会（H23～24） →四万十町6次産業化準備会（H25～）</li> <li>・アドバイザー（よろず支援拠点：H29年 2回）</li> <li>・経営コンサルタント（町単 モデルビレッジ）の導入（H29:8回ヒアリング）</li> </ul>	<p>＜地域資源の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜について高知大学との共同研究 ⇒成分分析など消費者が知りたい情報の提供（HPなど）</li> <li>⇒病害対策等研究体制の構築</li> <li>・枝豆については、共同利用機会の導入（脱莢機） ⇒出荷調整作業の効率化（生産量の拡大）</li> </ul> <p>＜商品開発と販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーで得たノウハウを活用した新商品を開発 ⇒あぐり豚まんの横展開が可能となった。</li> <li>・商談会等による販路拡大 ⇒R2年度の増産（現状の2倍）に対応した販路を確保できた。</li> </ul> <p>＜運営体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町地域まるごと6次化構想を策定（新加工場建設及び販売に関する基本計画） ⇒協議を重ねつつ各種補助事業（アドバイザー、補助金）を活用することで、運営体制や地域資源の活用方法の構築ができ、新加工場建設の着手が可能となった。</li> </ul>
<p><b>14 四万十町畑作振興プロジェクト</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>四万十野菜合同会社及び栽培委託農家が生産した農産物を県内外の高質スーパー、外食チェーン、専門店に直接販売し、こだわり野菜の一大産地として四万十町の認知を高めることにより、地域の農業者の所得向上を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・四万十野菜合同会社、(株)ハマヤ</p>	<p>＜自社農園の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷調製機械（サトイモ、ショウガ）の導入（H30）</li> <li>・栽培面積の拡大（耕作放棄地にしない取組）（H28～）</li> </ul> <p>＜四万十有機野菜のトップブランド化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別栽培農産物の推進</li> <li>・「しまんと畑」ブランドで出荷販売する体制の整備</li> </ul> <p>＜四万十野菜の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しまんとハマヤ」店舗内の、産直コーナー「しまんと市場」のリニューアル（H28,11月）</li> <li>・「しまんと市場」出品者への栽培講習会の開催（H28～）</li> </ul> <p>＜四万十仁井田米の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまんとの清流が育んだこだわり米（仁井田米ブランド）の販売促進</li> </ul> <p>＜四万十町産農産物全体のブランド力強化による生産農家の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランディング検討会開催、商談会、展示会への出展（H30：17回）</li> </ul>	<p>＜自社農園の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サトイモ、ショウガの出荷調製機械を導入し作業の省力化が図られ、面積拡大が可能となった。 ⇒R元栽培予定面積：441a（H26：0a）</li> </ul> <p>＜四万十有機野菜のトップブランド化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別栽培の現地確認組織「しまんと畑生産者会」の設立（H29.4） ⇒集落営農法人で5割減農薬栽培に取り組んだ</li> </ul> <p>＜四万十野菜の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会において生産品目を売れ筋野菜に絞り込んだ（重点推進野菜7品目） ⇒絞り込むことで、販売量の確保と品質の向上が図れた。</li> </ul> <p>＜四万十仁井田米の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買取り販売農家が徐々に拡大している。 ⇒R元見込み：80戸</li> </ul> <p>＜四万十町産農産物全体のブランド力強化による生産農家の経営安定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しまんと畑」のロゴが完成した ⇒主要取引先が23社に拡大</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
(参考値) 豚まん等販売額 (H29 : 87,011 千円)	(R元年度末見込) 89,112千円	—	<p>これまでの協議や活用した補助事業により一定構築できた新加工場の運営方針により、ハード面ではH29～30で設計を行い、ソフト面ではH30から商品開発や販路開拓に取り組んだ。</p> <p>H31.3月に産振補助金審査会において「あぐり窪川新加工場（豚まん等製造）」が事業採択となったので、今後は目標値を掲げて事業を推進していく。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新加工場稼働後の加工場の人員確保</li> <li>・既存商品及び新商品開発のコンセプトの統一</li> <li>・新加工場稼働（R2.4月）に向けた態勢の充実</li> <li>・旧加工場稼働（R3.4月）に向けた態勢の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有期雇用から高卒新規募集への転換による職員の常用雇用化</li> <li>・あぐり窪川全体の商品開発のコンセプトの構築</li> <li>・R2.4月の新加工場稼働に向けた準備（県版HACCP第ステージ3認証取得、事業戦略策定、新商品開発等）</li> <li>・R3.4月（予定）の旧加工場（全面改築）稼働に向けた準備（県版HACCP認証取得、主力商品の選定等）</li> </ul>
四万十野菜合同会社の販売額 118,911千円 (H26 : 0円)	(R元年度見込) 100,000千円  (直近の実績) 85,246千円 (H30年度末)	A	<p>化学合成農薬や化学肥料を使用しない栽培を行っているため、当初は生産が安定しなかったが、輪作の実施などにより生産が安定してきた。また労力がかかっていた出荷調整作業を機械化することで栽培面積の拡大が可能となり、販売金額も増加してきている。</p> <p>雇用については品目の集約や、省力機械の導入、また生産安定のため緑肥を作付けしたことなどにより、作物の栽培に多くの労力を必要としなくなったため、目標に届かなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ASIAGAP認証を取得し、生産性の向上を図る。</li> <li>・規格外品等を活用した野菜ペーストの商品化及び「ハマヤ」の販売ルートを活用した販売先の確保</li> </ul>
四万十野菜合同会社の雇用者数 18人（累計） (H26 : 0人)	(R元年度見込) 10人  (直近の実績) 10人 (H30年度末)	A-	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定生産に向けた栽培技術の向上</li> <li>・規格外品等を活用した6次産業化の推進</li> </ul>	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>15 四万十のうまい豚プロジェクト</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>生産者自らが四万十町産の豚肉と、米・野菜等の地元食材を活用した加工事業に取り組むとともに、直営精肉店等を出店し、生産から販売までの一貫した事業展開を図る。また、畜舎の新築等により、養豚農家の生産性の向上を図るとともに、増産体制を確立する。さらに、安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取組を進めることにより、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十ポークブランド推進協議会</li> <li>・農事組合法人四国デュロックファーム</li> <li>・農事組合法人平野共同畜産</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連（四万十ポークブランド推進プロジェクト）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十ポークブランド推進協議会        &lt;ブランド化の推進&gt;        ・四万十ポークブランド推進協議会において商標登録が検討される（H30.6月）        ・商標登録に関する相談（高知県知財総合支援窓口 H30.12月）        ・協議会に「四万十ポークブランド」商標登録取得をするための弁理士派遣（H30.2月）        ・産振アドバイザー派遣によりブランド化検討（H30.7月）</li> <li>●(農)四国デュロックファーム        &lt;商品開発・販路開拓&gt;        ・加工場及び直販所オープン（H28）        ・直販店舗の展開        H28：高知市テナント店オープン（55番街）        パーベキュー場オープン        H30：高知市テナント店オープン（御座）        ・各種イベントの開催        H28：7回 H29：14回 H30：15回        ・商談会等への参加        H28：3回 H29：15回 H30：14回</li> <li>●(農)平野共同畜産        &lt;施設の新築、補改修による生産効率の改善&gt;        ・畜舎の新設、補改修による生産基盤強化        畜産競争力強化対策緊急整備事業（国補助）        産業振興推進総合支援事業費補助金        （H28：特別事業）        総事業費：108,504千円        畜産補助金：50,232千円        産振補助金：16,746千円</li> <li>&lt;高能力優良種豚の導入・贈頭による出荷頭数の増加&gt;        ・農場HACCP推進農場認証に向けた取組        ・農場HACCP認証農場に向けた取組        農場HACCPに係る打ち合わせ会、チーム会        H28：26回 H29：16回        H30：12回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四万十ポークブランド推進協議会        &lt;ブランド化の推進&gt;        ・ブランド化に向けた具体的な協議の取りかかりができた。</li> <li>●(農)四国デュロックファーム        &lt;商品開発・販路開拓&gt;        ・加工場及び直販所を整備し、町外に直販店舗を展開することで、加工品の開発・製造・販売が可能となったことや、商談会等を通じた販路開拓により、直販所等の売上が増加した。        ⇒直販所＋直販店舗(55番街)の売上高        H28：66,467千円        H29：83,050千円        H30：91,364千円</li> <li>●(農)平野共同畜産        &lt;施設の新築、補改修による生産効率の改善&gt;        ・H29年度竣工        施設が整備出来たことで、生産性及び衛生管理が向上、母猪数や出荷頭数も順調に増加した。        &lt;高能力優良種豚の導入・贈頭による出荷頭数の増加&gt;        ・農場HACCP推進農場認証取得（H28）        ・農場HACCP認証農場取得見込み（R元）</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
(農)四国デュロックファーム 売上高 551,545千円 (H27: 518,785千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 496,415千円 (H30年度末)	B	<p>●四万十ポークブランド推進協議会 推進協議会として、「四万十ポーク」のブランド化に取り組むことが共有され、具体的な支援メニューを活用しながらブランド化に向けた取組が進んだ。</p> <p>&lt;課題&gt; 農家ごとに異なる外商レベル（販売先の違いや自社の加工直販所の有無など）のため、ブランド化への足並みが揃わないため、協議会を継続的に開催し、関係者の意識を醸成する必要がある。</p> <p>●(農)四国デュロックファーム 加工・直販所の整備により、自社での加工及び外商活動に勤しんでおり、高知市への新規テナント出店や、県内の他事業者への材料提供等も精力的に行っている。</p> <p>&lt;課題&gt; 売上高の減少の原因は、既存テナント店の売上不振（改修による一時休業含む）が主。ただし、加工直販所や新規テナント店も慢性的な人手不足のため、人材の確保が必要である。</p>	<p>●四万十ポークブランド推進協議会 ・ブランド化に向けた継続協議</p> <p>●(農)四国デュロックファーム ・外商活動の推進（直販所及び高知市内店舗の経営の安定化） ・人材の確保（慢性的な人材不足の解消）</p> <p>●(農)平野協同畜産 ・R元年度中に農場HACCP認証農場取得 ・ハローワークを通じた継続的な人材確保</p>
(農)平野協同畜産 母豚数 500頭 (H27: 420頭)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 477頭 (H30年度末)	A	<p>●(農)平野共同畜産 施設を整備することで、生産性及び衛生管理の向上が図れ、母豚数や出荷頭数が順調に増加している。 H28年度には、県内初の農場HACCP推進農場に認定された。</p> <p>&lt;課題&gt;</p>	
(農)平野協同畜産 出荷頭数 11,000頭 (H27: 8,400頭)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 9,693頭 (H30年度末)	A－	<p>・事業規模の拡大に伴う従業員や経営コンサルの確保</p>	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>16 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>養鶏農家が自社鶏卵と地元産の食材を使用した加工品の製造・販売を行う6次産業化に取り組み、販路開拓を行うことで売上アップと新たな雇用の創出を図る。</p> <p>【事業主体】 ・(株)ぶらうん</p>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新加工場の整備 (H29) 産業振興推進総合支援事業費補助金 (H29：一般事業) 総事業費：109,622千円 産振補助金：49,987千円</li> </ul> <p>&lt;商品開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興アドバイザー招へい2回 (H29) 「商品・販売戦略・デザイン等への指導」</li> <li>・産業振興アドバイザー招へい1回 (H30) 「試作品の改善指導・製造ライン指導」</li> <li>・6次産業化セミナー受講 (H30通年9回)</li> </ul> <p>&lt;販路拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイーツの増産及び惣菜の製造販売に係るマーケティング等調査の実施 産業振興推進総合支援事業費補助金 (H29：ステップアップ事業) 総事業費：2,106千円 産振補助金：975千円</li> <li>・商談会への出展 H29：0回 H30：16回</li> <li>・イベント等への出展 H29：0回 H30：13回</li> </ul>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新加工場整備による生産・販売体制の強化 ⇒スイーツに加え新規事業である惣菜部門の新商品の開発が出来た。</li> </ul> <p>&lt;商品開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振アドバイザー等を活用した商品開発 ⇒新商品1品2種（「ごちそうたまご豆腐」（ゆず味、トマト味）） ⇒「ごちそうたまご豆腐」が高知家のうまいもの大賞2019を受賞し、販路開拓につながった。</li> </ul> <p>&lt;販路拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング等調査報告を踏まえた事業計画に基づく積極的な外商活動の展開</li> <li>・各種商談会、イベント等への参加 ⇒既存のスイーツ商品及び新規の惣菜事業の開拓に注力でき加工品売上額の増加につながった。</li> </ul>
<p><b>17 地域生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と商品開発</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を活かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により高知県産生姜の知名度向上を狙う。また、町内の生姜農家や企業等と連携し、生姜病害の病原菌早期発見方法を確立することにより生姜生産の安定化を目指す。結果として、地域の生姜農家の所得向上や雇用の創出を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・RELA GREEN VILLAGE(株)</p>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <p>&lt;商品開発・販売促進&gt;</p> <p>&lt;病害対策&gt;</p>	<p>&lt;施設整備&gt;</p> <p>&lt;商品開発・販売促進&gt;</p> <p>&lt;病害対策&gt;</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
加工品売上高 84,677千円 (H28 : 49,691千 円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 52,145千円 (H30年 度末)	A－	加工施設の整備により、生産・販売体制が強化され たことで、新規事業である惣菜部門での新商品開発に 注力できた。 新商品は、県外では高質系スーパーからの評価も高 く、県内では「高知家のうまいもの大賞」受賞効果によ り、既存のスイーツ商品も含めてさらなる販路拡大につ ながり、結果として加工品の売上額が伸びた。  <課題> 専務1人が売上管理・社員指導、加工・販売及び 営業までを行うため、営業力が制限されている。今年 度は2号店出店まで重なるため、人材の確保が必要で ある。	・1号店の加工場の衛生管理（県版 HACCP第3ステージ認証取得） ・2号店の出店及び経営安定 ・新商品開発（惣菜部門） ・人材の確保 営業の人材や2号店出店に必要な 人材の確保・育成（求人ネットの活 用など）
売上高 20,000千円 (H29 : 16,848千 円) ※H30.9設立法人のため、法人分離前の(株) 佐竹ファームのH29実 績の該当分	(R元年度末見込) －  (直近の実績) －	－	取組に必要となる施設整備（冷蔵庫／洗浄場／ 加工場）を行う土地の選定に時間を要している。  <課題> ・施設整備 ・商品開発 ・病害対策	・施設整備 ・商品開発 ・病害対策

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>18 「四万七ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進</b></p> <p>《中土佐町、四万十町》</p> <p>四万十森林資源の販売拡大を進めるため、地域産材の原木の増産と、広域で取り組む「四万七ヒノキ」のブランド化を図ると共に、「四万七ヒノキ」ブランド商品を販売する地元事業者との連携による販売力の強化を進める。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町森林組合</li> <li>・須崎地区森林組合</li> <li>・四万十町</li> <li>・中土佐町</li> <li>・地元事業者</li> </ul>	<p>＜「四万七ヒノキ」の基準等の設定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロゴマーク活用による四万七ヒノキの認知度向上（建築現場等でのロゴマーク使用による広報・周知）（H27～）</li> </ul> <p>＜「四万七ヒノキ」に代表される地域木材資源の販売拡大、販売拠点の設置、販売策の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具デザイナー、パイヤー、設計士を産地へ呼び込み成約率向上を目指し、「展示・商談施設」整備（H28～29）</li> <li>産業振興推進総合支援事業費補助金（H29：一般事業（特別分））</li> <li>総事業費：36,211千円</li> <li>産振補助金：22,351千円</li> <li>・「展示・商談施設」が整備され（H30.3月）各種商談会（住宅相談会、視察商談会）の実施</li> <li>⇒外商回数（外での営業活動を含む）</li> <li>H28：246回 H29：324回 H30：369回</li> <li>・産地商談の推進：韓国のパイヤーや大阪のデザイン設計士等（H29）</li> <li>・中土佐町で「第3回全国木のまちサミット」を開催（H29）</li> <li>・韓国への輸出に向けた取組として、同国での木材市場調査と合わせ現地において商談を実施。（H30）</li> </ul> <p>＜FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FSC認証制度等を活用した製品の販売を継続（H21～30）</li> </ul> <p>＜「四万七ヒノキ」ブランド商品を販売する地元事業者との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携事業者：1社</li> </ul>	<p>＜「四万七ヒノキ」の基準等の設定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4市町（四万十町、四万十市、中土佐町、三原村）が連携した公共施設への積極的な活用等により、地域森林資源の原木生産が増産できた</li> </ul> <p>＜「四万七ヒノキ」に代表される地域木材資源の販売拡大、販売拠点の設置、販売策の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開によりH29には集成材工場の売上高が目標（3億円）を達成</li> <li>⇒売上高</li> <li>H27：2.5億 H28：2.6億 H29：3.5億円 H30：2.0億※</li> <li>※官公庁からの大手受注がなかったため</li> <li>・ベッドメーカー「シモンズ」が四万七ヒノキシリーズのベッドをH28から販売を開始し、売上好調。</li> <li>⇒受注台数</li> <li>H28：140台 H29：145台 H30：145台</li> </ul> <p>＜FSC等認証森林の拡充とPR強化及び積極的な営業活動の展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認証材を用いた加工品製造に必要な一定規模の認証森林面積の確保が出来た。</li> </ul> <p>＜「四万七ヒノキ」ブランド商品を販売する地元事業者との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まな板（水切り加工付き）の共同製作・販売（H30）</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
地域森林資源の原木 生産量 (ヒノキ、スギ) 15,400m <sup>3</sup> (H26 : 13,999m <sup>3</sup> )	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 32,330m <sup>3</sup> (H30年度 末)	A+	<p>原木生産量については、「四万七ヒノキ」のブランド化の取り組み効果などにより目標値を大きく上回ることができた。</p> <p>集成材工場の加工品の売上についてはH29は目標値を上回ったものの、H30については目標値に到達できなかった。これは官公需など大口の受注がなかったことが原因であり、H30.3月にオープンした展示商談施設をより一層活用し、販路を拡大を図る必要がある。</p> <p>FSC等認証森林面積についてはおおむね目標を達成できており、認証材を用いた加工品製造には十分対応できる状況となっている。</p> <p>&lt;課題&gt; ・四万七ヒノキ集成材製品の販路の拡大 (集成材製品展示場を活用した外商活動の強化)</p>	<p>・原木生産量については近年の増加傾向を維持し、増産を図る。</p> <p>・集成材工場の加工品の売り上げを伸ばすため、展示商談施設のより一層の活用を図る (展示場を活用した積極的な外商活動の推進)。</p> <p>・現在の認証森林面積を維持できるように審査機関による継続審査 (2年に一度) に着実に対応する。</p>
集成材工場の売上高 3億円 (H27 : 2.5億円)	(R元年度末見込) 2.2億円  (直近の実績) 2.0億円 (H30年度 末)	B		
FSC等認証森林面積 8,013ha (H26 : 6,678ha)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 7,189ha (H30年度 末)	A－		
販売連携事業者数 3社 (H26 : 0社)	(R元年度末見込) 1社  (直近の実績) 1社 (H30年度末)	A－		



項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>19 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進</b></p> <p>《栲原町、津野町》</p> <p>「大上厚シイタケ」を筆頭とする有望品目「原木乾シイタケ」を地域の特産品として磨き上げ、生産者の所得向上につなげることを目的として、生産者のスローガンである「1億円産業の復活」を実現するための方針・推進体制づくりや基幹生産者の育成と新規生産者の確保育成による担い手対策、商品力の向上や加工品販売、生産者と連携した営業活動による営業体制の強化と直販ルートの拡大、生産施設の増強や低コストで原木を確保する対策など生産基盤施設の整備を実現する。</p> <p>【事業主体】 ・JA高知県（高西地区）</p>	<p>＜産地化に向けた体制づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栲原町補助金を活用し、原木と種コマを購入・生産（H28）</li> <li>・椎茸生産部会の小部会「億産会」の設置及び意見交換会等の実施（H25～）</li> </ul> <p>＜生産の担い手対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干しシイタケの乾燥方法の見直し（低温乾燥方式）による品質及び所得向上</li> <li>・生産者に対する重点的な講習会・直接訪問指導等 H28: 3回 H29: 2回</li> </ul> <p>＜営業体制・商品力の強化と直販ルートの開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県しいたけ振興大会、乾椎茸品評会への出品（H27～）</li> <li>・全農乾椎茸品評会への出品（H27～）</li> <li>・低温乾燥技術の導入（H30～）</li> </ul> <p>＜シイタケ生産・基盤施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特用林産振興対策事業補助金【補助額：1,500千円（原木11,662本、種駒122,000個、形成菌358,000個）（H27）</li> </ul>	<p>＜産地化に向けた体制づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者が一丸となって取り組むための組織づくりができ、意欲ある生産者が主体となった意見交換等を実施 ⇒今後の販路や生産についての意見交換等ができ、部会員の意欲の向上につながっている。 椎茸生産部会の部会員 H28：48名 H29：45名 H30：45名</li> </ul> <p>＜生産の担い手対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者の確保には至っていないが、「低温乾燥方式」への見直しにより、単価が向上し、収入増につながった。</li> </ul> <p>＜営業体制・商品力の強化と直販ルートの開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低温乾燥技術導入による高品質商品の開発 ⇒単価向上による所得向上 従前：2,800円/kg H30：4,800円/kg</li> </ul> <p>＜シイタケ生産・基盤施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6名の生産者が津野山しいたけ生産者共同体に参加 ⇒販売量H27：4.3t→H28：5.4t</li> </ul>
<p><b>20 県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>県内の竹製品製造業者に対して原材料である県産竹材を安定的に供給することにより地域産業の発展に貢献するとともに、森林組合の収益の向上と雇用の創出による地域の活性化を図る。</p> <p>【事業主体】 ・須崎地区森林組合</p>	<p>＜良質竹材を算出できる事業地（竹林）の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹生産のための事業対象地の確保。</li> <li>・県内最終加工事業者と県外納品先との調整ができた。</li> </ul> <p>＜収支の改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金（森林・山村多面的機能発揮対策事業）を活用（H28～30）</li> </ul>	<p>＜良質竹材を算出できる事業地（竹林）の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産活動の継続により竹林が整備された ⇒H28～30 9ha</li> </ul> <p>＜収支の改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業の活用により収支が改善された。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
乾燥シタケの販売量 11t (H26: 5.9t)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 4.4t (H30年度末)	B	<p>毎年高知県乾椎茸品評会等での入賞者を輩出するなど、高品質なシタケの生産を実現している。高齢化が進む中でも椎茸生産部会の部会員の人数は概ね横ばいとなっている。</p> <p>&lt;課題&gt; 新たに導入した低温乾燥技術を活用することにより、高品質なシタケを出荷し、有利販売につなげる必要がある。 また、高齢化により1戸当たりの出荷量が減少傾向にある。</p>	<p>・より高単価な販売につなげるため、飲食店事業者を招いて椎茸料理の講習会を開催するなど、新たに生産が可能となる低温乾燥シタケを実需者に紹介するための取組を進める。</p> <p>・部会員の所得を向上させることにより、1戸当たりの出荷量を増加させるとともに、新たな部会員の確保につなげる。</p>
原竹供給本数 33,000本/年 (H26:4,461本)	(R元年度末見込) 6,500本  (直近の実績) 6,576本 (H30年度末)	A－	<p>事業地の確保や生産体制の構築に取り組み、竹材生産をスタートした。目標値には届かない状況となっているものの、竹材生産活動により竹林の荒廃を防止することができた。</p> <p>&lt;課題&gt; ・竹材の引き取り単価が安いいため採算が厳しい。 ・アクションプラン開始時点で見込んでいた需要の増がない。</p>	<p>・採算が合うように、伐採・搬出の効率化を進める。</p> <p>・需要の拡大の可能性を検討する。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>21 四万十川源流クロモジ等中山間資源活用ビジネスの創出</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>四万十川源流域のクロモジやヒノキ等の資源を活用して、原料調達・加工・製品化まで廃棄物を発生させないゼロエミッション型システムによるビジネスを創出し、地元関係機関と連携して、これらの商品を活用することにより地域の魅力度向上を図る。</p> <p>【事業主体】 ・高知精工(株)</p>	<p>＜事業計画策定＞ ・工業技術センターと共同でクロモジ等の抽出試験を実施 ・ひのき石けんの試作</p> <p>＜商品開発・市場開拓等＞ ・クロモジ茶（きざみ茶）発売（H26～） ・小谷穀粉のクロモジ茶「土佐の黒文字茶」発売開始（H29～） ・葉草の原料となるアカメガシワを製薬会社と取引開始（H28～） ・ヒノキオイルの抽出・販売継続（H26～）</p> <p>＜施設・設備整備＞ （費用対効果等から今期での施設整備断念）</p>	<p>＜事業計画策定＞ ・「シャンプー」「トリミングウォーター」「クロモジ配合茶」等の試作を行い一定の評価を得た。</p> <p>＜商品開発・市場開拓等＞ ・クロモジ販売先 3社（小谷穀粉（葉）、菊水産業（原木）、八田商店（原木）） ・ヒノキオイル販売先4社（ピリケン、中央印刷、アミオン、キセイテック）他飛び込みの個人（韓国、タイ）</p>
<p><b>22 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用</b></p> <p>《梶原町》</p> <p>持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者の所得向上を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・梶原町森林組合 ・梶原町 ・ゆすはらペレット(株)</p>	<p>＜安定的な木材生産＞ ・森林所有者との共同により民有林面積の約5割の森林において森林経営計画を作成し、有利な補助制度を活用して間伐等森林整備及び木材生産を推進。 ・森林組合が高性能林業機械を導入し、自らの素材生産力の強化を図った。（H27、H30）</p> <p>＜FSC認証材の拡充による製材品の販売強化＞ ・製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開に取り組む ・森林組合、役場、県林業事務所の三者による産地商談会の実施。 ・香川県を対象に官民連携による産地商談会を実施をした。（H29）</p> <p>＜木質ペレットの製造＞ ・工場を改装して樹種別のおが粉貯留設備を導入した。（H30）</p>	<p>＜安定的な木材生産＞ ・森林経営計画認定面積9,654ha（H30末） ・高性能林業機械により木材の生産体制が整備された。</p> <p>＜FSC認証材の拡充による製材品の販売強化＞ ・新たなパートナー工務店との取り引きが始まるなど、注文が増える兆しがでてきた。 ・産地商談会の実施により、販路開拓の意欲が高まった。 ・香川県での産地商談会により、新規取引先を開拓できた。</p> <p>＜木質ペレットの製造＞ ・工場改装の結果、ペレットの品質が安定してきた。</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
商品売上高 10,000千円 (H26: 5,701千 円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 4,835千円 (H30年 度末)	B	クロモジについては、工業技術センターの支援により小 谷穀粉が「土佐の黒文字茶」として商品開発し、まろご と高知での販売もされている。高知精工はその原料と なるクロモジを納入している (H29.9月が最後の納入 (現在小谷穀粉に在庫あり) ) となっており、引き続 き小谷穀粉と連携して取り組む必要がある。 ヒノキ間伐材からのオイル抽出により付加価値をつけ ており、比較的需要が高いものの、間伐・抽出は通年 続いていることから、オイルの在庫が多くなっており、引き 続き販路の開拓を行っている。  <課題> 新たな販路の開拓 (韓国 他) 担当者の高齢化により、HPによるPRや自社製品の 開発ができない状況となっている。マンパワー不足の解 消が今後の課題。	・「土佐の黒文字茶」については、小谷 穀粉を技術面で支援している工業技 術センターを通じ、販路等の情報提供 をする形で引き続きサポートする。 ・ヒノキオイルについて、産振センターの 支援を受けながら海外への輸出を視 野に入れた検討を行う。 ・自社での新たな人材確保をすると ともに、地域おこし協力隊を引き続き募 集し、商品のPRや営業活動の出来る 人材を確保していく。
森林組合木材生産量 6,000m <sup>3</sup> (H26:1,997m <sup>3</sup> )	(R元年度末見込) 5,809m <sup>3</sup>  (直近の実績) 5,535m <sup>3</sup> (H30年度 末)	A	森林組合木材生産については、設備投資により生 産体制が整ったこともあり、木材生産量は増加傾向と なっている。H30年度は目標には達していないが、西日 本豪雨の影響を受けたものと判断している。	・森林組合は、高性能林業機械を効 率よく活用して木材生産量を伸ばして いく。
自伐林家等木材生産 量 7,000m <sup>3</sup> (H26:5,905m <sup>3</sup> )	(R元年度末見込) 7,000m <sup>3</sup>  (直近の実績) 8,437m <sup>3</sup> (H30年度 末)	A+	自伐林家等の木材生産量は、森林経営計画の認 定を受けることによる生産意欲の高まりなどもあり、生 産量は増加傾向となっている。	・自伐林家等の木材生産量は、現状 で推移していくと考えている。
認証材の販売量 1,600m <sup>3</sup> (H26:1,106m <sup>3</sup> )	(R元年度末見込) 1,200m <sup>3</sup>  (直近の実績) 998m <sup>3</sup> (H30年度 末)	A-	認証材の販売量については、主な販売先の大阪にお いて地震が発生したため需要が落ち込んだが、一時的 なものと思われる。	・新たな取引先を増やすことによる安 定した取引の継続を進める。
ペレット原材料 3,900t (H26:2,929t)	(R元年度末見込) 4,300t  (直近の実績) 4,321t (H30年度 末)	A+	林地残材の受け入れが定着してきたことから、ゆすは らペレットへの原木の持ち込み及びペレットの生産は安 定している。	・木材生産の増により原木 (林地残 材) の受け入れは安定して持ち込ま れると見込まれる。
ペレット生産量 1,700t (H26:993t)	(R元年度末見込) 1,456t  (直近の実績) 1,276t (H30年度 末)	A	ペレット生産量は目標に達していないが、町内の公共 施設や宿泊施設、町外のハウス園芸や入浴施設など、安定した需要先は確保できている状況となってい る。	・これまでの取組を維持していく。

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>23 津野町森林・林業再生プロジェクト</b></p> <p>《津野町》</p> <p>豊富な森林資源の有効活用及び森林所有者の所得向上を図るため、山元貯木場の増設等を行うとともに、林地残材等の資源化や地域経済の活性化を目的とした地域資源活用システムを新たに構築する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町森林組合</li> <li>・梶原町</li> </ul>	<p>＜山元貯木場整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津野町森林組合が素材生産の増産に向けた山元貯木場を整備（H28）</li> </ul>	<p>＜山元貯木場整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原木の受入が開始され、取扱量が順調に伸びてきている</li> </ul>
<p><b>24 野見湾産養殖カンパチの販路拡大</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>野見湾カンパチ養殖生産者グループと漁協、民間企業とが連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力（魚価形成力、取引量の拡大等）を構築し、養殖業の振興に資する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷漁協</li> <li>・大谷漁協ネイリ部会</li> <li>・(株)みなみ丸</li> </ul>	<p>＜販路拡大と出荷体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外量販店での試食会の開催（H28：7回・12日、H28：9回・18日、H29：9回・18日、H30：11回・23日）</li> <li>・県内外商談会への出展（H27：4回、H28：4回、H29：8回、H30：9回）</li> <li>・継続的な販売活動の実施</li> </ul> <p>＜加工施設の機能強化に向けた検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなみ丸新加工場の稼働開始（H28～）</li> <li>・HACCP研修会等への参加（H28、29）</li> <li>・衛生管理体制の強化（H27～）</li> </ul>	<p>＜販路拡大と出荷体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外商談会への出展等</li> <li>⇒売上高の増加</li> <li>H26：4,320千円</li> <li>→ H30：54,128千円</li> </ul> <p>＜加工施設の機能強化に向けた検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県版HACCP第2ステージまでの認証の取得</li> <li>⇒HACCPの管理手法の導入により、食品加工業における安全性確保への取組みが対外的に認められた。</li> </ul>
<p><b>25 浦ノ内湾産養殖マダイの販路拡大</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>浦ノ内湾における養殖マダイ生産者グループと漁協、民間企業とが連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力（魚価形成力、取引量の拡大等）を構築し、養殖業の振興に資する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県漁協深浦支所</li> <li>・土佐鯛工房</li> <li>・乙女会</li> <li>・(株)大東冷蔵</li> <li>・(有)小島水産</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連 （宇佐・浦の内地区水産資源活用クラスタープロジェクト）</p>	<p>【土佐鯛工房】</p> <p>＜生産量の確保と販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の確保を目的とした新規漁業就業者の長期研修生受入（H29：1名、H30：1名）</li> <li>・バイヤーや飲食店事業者を対象とした産地見学会の開催</li> <li>H28：13回 H29：2回 H30：5回</li> <li>・県内外商談会への出展</li> <li>H28：3回 H29：2回</li> <li>・海外への輸出の開始（H29）</li> </ul> <p>【乙女会】</p> <p>＜販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な販売活動</li> <li>・県内外商談会への出展</li> <li>H29：1回</li> </ul> <p>＜加工施設の機能強化に向けた検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HACCP研修会等への参加（H29.30）</li> <li>・加工場の衛生管理の強化（H20～）</li> </ul>	<p>【土佐鯛工房】</p> <p>＜生産量の確保と販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生受入により、生産量の確保につながった。</li> </ul> <p>【乙女会】</p> <p>＜生産量の確保と販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な販売活動等により、新たに県内外量販店等の取引が始まった。</li> <li>⇒販売数量の増</li> <li>H25：4.5万尾 → H30：20.3万尾</li> </ul> <p>＜加工施設の機能強化に向けた検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県版HACCP第3ステージ認証取得</li> <li>⇒食品加工業における安全性の確保が図れた。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
山元貯木場取扱量 23,000m <sup>3</sup> (H27:17,000m <sup>3</sup> )	(R元年度末見込) 25,000m <sup>3</sup>  (直近の実績) 25,358m <sup>3</sup> (H30年度末)	A+	森林組合が、愛媛県の木材市場に出荷していた林産事業者に対して、整備した山元貯木場への出荷を働きかけたこともあり、順調に取扱量が伸びてきており、目標値を達成することができた。	目標値は達成されていることから、これまでの取り組みを継続し、取扱量を維持していく。
大谷漁協ネイリ部会・みなみ丸売上高 86,960千円 (H26 : 4,320千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 54,128千円 (H30年度末)	A	ふるさと納税への商品掲載、商談会の出展、その他販売活動により販路を拡大しており、目標には達していないものの、売上高は毎年順調に伸びており、今後、目標の達成が見込まれる。 また、加工施設の機能強化については、R元年度中に県版HACCP第3ステージの認証取得を目指している。  <課題> 加工施設が手狭になっていることに加え、現在は生鮮やチルド商品が販売の主体となっていることから、新たな加工品開発のためは冷凍、調理設備等の導入が必要。	今後も継続して県内外で行われる商談会等に出展し、販売活動を行っていく。また、施設の加工施設の拡張や設備の導入等を検討する。
販売数量 ・土佐鯛工房 100千尾 (H26 : 60千尾)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 66千尾 (H30年度末)	A-	【土佐鯛工房】 土佐鯛工房の「海援鯛」は、徹底した生産管理による高品質なブランドマダイであり、顧客からの高いニーズがある。また、輸出にも取り組んでいたが、漁業者の高齢化により生産者が減少しており、生産量が確保できずに輸出は中断している。  <課題> ニーズに対して生産量が追いつかない状況となっていることから、生産量の確保が必要。	【土佐鯛工房】 県の支援制度を活用し、現在2名が研修中であり、今後生産者の増加が見込まれる。また、今後も県漁業就業セミナーの開催等を通じて新規就業者の確保を行う。  【乙女会】 今後とも継続的に販売活動を行っていくほか、状況を見据えて加工施設増設の検討を行う。
・乙女会 300千尾 (H26 : 53千尾)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 203千尾 (H30年度末)	A	【乙女会】 集出荷業者の小島水産が積極的に生産者の確保と販路の拡大を図っており、順調に販売尾数を伸ばしている。H30年度は、マダイの全国的な相場の高騰を受け、乙女鯛も値上がりしたことから出荷尾数はH29と比較して減少したが、販売額は1.5倍ほど伸びている。  <課題> ・新規就業者の確保 ・販路の拡大と収益の確保	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>26 楠木鮮魚一を活用した南地区の活性化</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>須崎市南地区の漁業者グループにより構成・運営される鮮魚直売所の楠木鮮魚一において、定置の朝獲れ鮮魚や養殖魚といった野見湾の地魚を中心とした鮮魚商品の販売力を強化することにより、将来的な南地区の地域振興に資する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楠木鮮魚一（大谷漁協 野見漁協 双子大敷組合 観音小型定置組合 大谷漁協タイ部会）</li> </ul>	<p>＜鮮魚市の集客による交流人口の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な鮮魚市の開設（H21～）</li> <li>・野見湾元気なお魚まつりへの出店（H27、H28）</li> </ul>	<p>＜鮮魚市の集客による交流人口の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鮮魚市の開設により地区外からの集客等があり、他地区との交流につながった。</li> <li>・お魚まつりへの出店により、南地区の対外的な発信につながった。</li> </ul>
<p><b>27 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>スラリーアイスを活用した付加価値の高い水産物（カツオ、メジカ、ウルメ、アマダイ等）のブランド化を図り、販路を開拓するとともに、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進につなげていく。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中土佐町</li> <li>・(株)SEAプロジェクト</li> </ul>	<p>＜地域物産品の販売促進活動＞</p> <p>水産加工場（鯉乃國水産）の運営主体 H27～H29：(株)中土佐町振興公社 H30：(株)SEAプロジェクト R元～：企画・ど礼もん企業組合</p> <p>＜スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓＞</p> <p>スラリーアイスを活用した高鮮度の鯉たたきを製造するための水産加工場を整備（H26）し、高鮮度ブランドとして「びんび」「上々」「特選」を立ち上げて販売。</p> <p>水揚げがない時期も安定供給するため、冷凍商品を開発して販売。（H29～）</p> <p>＜鯉以外の水産物を使った新商品の開発＞</p> <p>「めじか」を活用した「スラリーめじか」の販売開始（H24～）</p>	<p>＜地域物産品の販売促進活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)SEAプロジェクトが立ち上がり「道の駅なかとさ」がオープン（H29.7月）し、また平成30年度からは水産加工場の運営主体にもなることで、「道の駅なかとさ」で総合的に地域物産品の販売が行われる態勢が出来た。</li> <li>＜スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓＞</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>上々たたき販売先（飲食店） 3社（H30）</li> <li>特選 “ ” 5社（H30）</li> <li>産地視察受入れ 20件（H30）</li> </ul> <li>＜鯉以外の水産物を使った新商品の開発＞</li> <li>・「めじか」以外の水産物については現段階では現実性がないことが判った。</li> </ul>
<p><b>28 大正町市場商店街活性化事業</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>中土佐町の観光拠点であり、地域の中心商店街でもある「大正町市場商店街」の空店舗の活用により、大正町市場の活性化を目指すとともに、町内全体への観光客の集客を図り、町全体への波及効果を促す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正町市場組合</li> <li>・中土佐町商工会</li> <li>・中土佐町</li> </ul>	<p>＜大正町市場活性化対策協議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イートインスペースを設けた観光拠点施設「ぜよびあ」オープン（H28）</li> <li>・地域おこし協力隊着任（H29.12月～）</li> <li>・無料サービス「10分ガイド」開始（H30）</li> <li>・チャレンジショップ開始（H30.1月）</li> <li>・HPの開設、フリーペーパーの発行、MAPの作成、取材対応等による積極的な情報発信</li> </ul>	<p>＜大正町市場活性化対策協議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぜよびあ」のオープンにより、これまで機会を逸していた客を取り込むことが出来た。</li> <li>⇒各店舗の客席が一杯の場合に帰っていた客が、フリースペースとして「ぜよびあ」を飲食スペースとして活用。</li> <li>・地域おこし協力隊の活用や、チャレンジショップの取り組みにより商店街の活性化が一部図られた。</li> <li>⇒立ち飲みスペースオープン（H30）</li> <li>⇒串焼き店オープン（H30）</li> <li>⇒チャレンジショップ終了者が空き店舗へ新規オープン（H31.1月）</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
売上高 33,000千円 (H26 : 27,535千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 30,901千円 (H30年度末)	A	売上高については、野見湾産の養殖魚を取扱い、客単価が上がったことや、市内の居酒屋など一定の顧客を獲得したことで確保されている。一方で、交流人口については、周辺地域の高齢化と共に地域からの来客数が減少している。  <課題> ・周辺地域外からの顧客の確保	定置網漁業の再開時期（毎年10月頃）に高知や須崎市内を中心にチラシを配布し、施設の周知を行うなどにより、地域外からの来客の増加を図る。
交流人口 25千人 (H26 : 16千人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 10千人 (H30年度末)	B		
商品売上高 35,987千円 (H26 : 6,635千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 10,275千円 (H30年度末)	A－	関東や関西からの産地視察を年間20回近く受け入れるなど、中土佐ブランドのタタキの知名度アップが図られた。 H31.4月より、加工施設の使用許可を「企画・どく礼もん企業組合」が受けたことにより、商品開発や販路の開拓で新たな動きが期待される。  <課題> 加工職員の慢性的な不足により、たたき商品の大口の注文に対応できていない。	・施設の利用者が別AP（No.30）の実施主体である事業者（企画・どく礼もん企業組合）となったことから、カツオを軸とした新たな展開を図っていく。 ・加工職員の積極的な確保に取り組む。 ・スラリーアイスを使った新たな商品開発をし、道の駅や大正町等で販売展開することを検討する。
大正町入込客数の増加（浜ちゃん食堂） 28,000人 (H26 : 20,586人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 21,479人 (H30年度末)	A－	イートインスペースのある観光施設「ぜびあ」の開設により、観光客の滞在時間延長につながっている。 チャレンジジョブ補助金を活用して事務職員を配置したことから、一人目のチャレンジャーが新規開店し、二人目のチャレンジャーも決まった。 H29.12月より地域おこし協力隊が着任し、サポート体制の充実により、10分ガイドやSNSでの情報発信など、新たな取組によってサポート体制がより充実した。  <課題> 天候による影響を受けやすいこと（鰹など魚の水揚げ）や、店主の高齢化などによる人材不足、事業承継者不在による空き店舗（露店）対策	・引き続き、SNSやガイドマップを使った情報発信により、誘客を行っていく。 ・商店街関係者による協議会を設置して、「商店街活性化計画」を策定する。



項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>29 中土佐町SEAプロジェクト</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中土佐町</li> <li>・(株)中土佐町SEAプロジェクト</li> </ul>	<p>＜道の駅施設等の整備＞</p> <p>地産地消・外商の拠点として産振補助金を活用して道の駅を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金（H28：一般事業（特別分））</li> <li>総事業費：619,370千円</li> <li>産振補助金：50,000千円</li> <li>・道の駅オープン（H29.7月）（直販店＋テナント4店舗）</li> <li>・出荷者協議会の開催による直販店への出荷者確保（H29～H30）</li> </ul> <p>＜賑わい創出への展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産振アドバイザー（マーケティング）の招聘（H28）</li> <li>・産振アドバイザー（野菜ソムリエ）の招聘（H29）</li> <li>・周年イベントや季節感のあるイベント・フェア等の開催</li> <li>各種フェアの開催（スプリングフェア・クリスマス等）</li> <li>周年イベント等、節目のイベントの開催（1周年、25万人記念）</li> <li>・新商品開発の取り組み（極みだし、苺クリーム大福、塩キャラメル）</li> </ul>	<p>＜道の駅施設等の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅オープンによる地域への経済波及効果</li> <li>⇒直販店への町内出荷者数：125名</li> <li>⇒町内出荷者売上高110,501千円</li> </ul> <p>＜賑わい創出への展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なイベント・フェア等の開催による常に真新しい店舗づくりによる魅力度向上</li> <li>⇒H30.3 来場者25万人達成</li> <li>⇒H31.1 来場者50万人達成</li> </ul>
<p><b>30 「中土佐のうまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>現在進めている地域資源を使った商品開発を継続発展的に進めていくことにより、中土佐町の地域産業の向上を図るとともに大正町市場を中心にした地域の活性化を図り、賑わいづくりの創出を行う。</p> <p>中土佐町の花からの物語性のある商品を開発し、次世代ターゲットとなる若者層の関心を高め、新規顧客を開拓することにより、都市部との交流や消費拡大を図り、漁師のおばちゃん達が売るといいう大正町市場周辺及び中土佐町の価値を高める。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画・ど礼もん企業組合</li> </ul>	<p>＜中土佐の食文化を使った商品開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鰹を使った加工品開発（H28～H30）</li> <li>・食堂での鰹をつかったメニュー提供（H25～）</li> </ul> <p>＜地元や都市部等での販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント出店によるPR</li> <li>H28：19回</li> <li>H29：10回</li> <li>H30：11回</li> <li>・タタキ体験を通じたファン作り</li> <li>H28：7回</li> <li>H29：5回</li> <li>H30：6回</li> <li>・ふるさと納税業務受託（H28.6月～）によるファン作り</li> <li>・タタキ体験施設「陣や」における体験受入開始（H30～）</li> </ul>	<p>＜中土佐の食文化を使った商品開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工品開発3品目（H28～H30）（まぐろワタラー油、漁師のラー油かつお濃辛、土佐のジャコ魂）</li> </ul> <p>＜地元や都市部等での販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を通じたPR及び販路開拓</li> <li>⇒ふるさと納税寄付額の増</li> <li>H28：23,398千円</li> <li>H29：63,508千円</li> <li>H30：90,793千円</li> <li>・タタキ体験受入施設「陣や」の受入回数</li> <li>H30：7回</li> </ul>
<p><b>31 梶原町地場産品の地産地消・外商の推進</b></p> <p>《梶原町》</p> <p>梶原町にある一次産品や加工品など、さまざまな地場産品の町内外への販売を、IT等の活用、町内外への販売促進活動、並びに、町内の福祉施設及び小中学校等の給食に地域産品を調達する仕組みづくりによって促進するとともに、地場産品の商品力向上を促進する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町商工振興協同組合</li> <li>・JA高知県（高西地区）</li> <li>・町内事業者、生産団体</li> </ul>	<p>＜地場産品の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内外イベント等への積極的な出店による地場産品の認知度の向上</li> <li>・町内飲食店でキジ肉を使用したメニューの提供を開始（H26～）</li> <li>・龍馬パスポートⅢ参画開始（H28～）</li> <li>・集落活動センター等による地場産品づくりの実施（H26～）</li> </ul> <p>＜地場産品の商品力向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内事業者と飲食店を運営するシェフとのコラボによる商品開発（H30）</li> </ul>	<p>＜地場産品の販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆずはらグルメまつりで他県グルメと共に梶原町地元グルメのPRを実施。</li> <li>来場者19,000人（H30）</li> <li>・集落活動センターでつくった地場産品のひろめ市場でのPR・販売（H30）</li> <li>⇒集落活動センターの経済活動及び地域のPRにつながった。</li> <li>売上額：約100万円</li> </ul> <p>＜地場産品の商品力向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パン屋、飲食店等町内の事業者による地場産品（ジビエ）を使ったメニュー（ジビエメンチカツサンド、メンチカツバーガー、猪ハンバーグステーキ、鹿肉のミートソース）の提供開始</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
年間売上額 340,000千円 (H28 : 0円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 281,775千円 (H30 年度末)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産振補助金を活用して道の駅をオープンさせ、国道から離れた立地にもかかわらず、様々なイベント企画等により売上げ・客数ともに順調に推移している。</li> <li>・出荷者協議会を立ち上げる (H30) など、出荷者との連携を強化した。</li> <li>・地域産品を使った加工品開発を行い、空港やイベント、通販等にて販売、中土佐をアピールしている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt; 道の駅なかとさを起点に中土佐町全域に来場者の効果を波及させていくこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中土佐町全体への集客につながる中核施設として、魅力ある道の駅にするため、直販店舗とテナントとの連携を強化する。</li> <li>・「道の駅なかとさ」と大正町市場など周辺施設との連携の強化を図っていく (中土佐町商店街活性化計画の策定の取組)。</li> </ul>
開発する商品数 年1商品 (4商品)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 3商品 (H28～ H30)	A	<p>主にカツオを使った加工品販売や食堂運営を通じて中土佐の魅力アップを図っていたが、ふるさと納税業務を受託することや (H28～)、タキ体験施設「陣や」における体験受入 (H30～) 等、新たな方向性を見出して町の魅力アップを図っている。</p> <p>&lt;課題&gt; 人材不足により商品開発や営業活動が十分に出来ないため売上が低迷している。</p>	<p>H31.4月より、中土佐町から水産加工場 (鯉乃國水産) の使用許可を取り、AP (No.27) の実施主体となることから、カツオを軸に既存の商品とスラリーアイスを活用した商品を一体的な取組を通じて売り込む。</p>
商品売上高 50,000千円 (H26 : 32,180千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 21,293千円 (H30年 度末)	B		
「まちの駅」出荷登録者数 120人 (H26 : 92名)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 88名 (H30年度末)	B	<p>生産者の高齢化により出荷登録者数は伸び悩んでいるものの、イベント出店等による積極的なPRや、町内の隈研吾設計による建築物や四国カルストの麓「雲の上の町」のPRにより、町を訪れる観光客は増えており、まちの駅での地場産品の販売額は増加している。</p> <p>&lt;課題&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町外への販促活動や催事への出展を積極的に行うことにより、消費者ニーズをつかみ、マーケットインの商品づくりをすすめる。</li> <li>・アドバイザーの活用などにより、町内事業者にはACCPの認証取得を促す。</li> </ul>
「まちの駅」販売額 40,000千円 (H26 : 18,136千円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 23,681千円 (H30年 度末)	A－	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品の商品力の向上のため、消費者の声を集め、商品の磨き上げにつなげる必要がある。</li> <li>・町内の食品加工事業者にはACCPの認証取得が進んでいない。</li> </ul>	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>32 津野町地産地消・外商販売戦略</b></p> <p>《津野町》</p> <p>(有)津野町ふるさとセンターにおいて、機能向上した直販所販売システムの活用及び直販体制の拡充・改善を図るとともに、(株)満天の星における6次産業化等による高付加価値商品の積極的な地産地消・外商戦略を通じ、拠点ビジネスを安定させ、売上の向上と町内外への情報発信による交流人口の拡大及び農家所得の向上を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(有)津野町ふるさとセンター</li> <li>・(株)満天の星</li> <li>・(一財)天狗荘</li> <li>・津野町</li> </ul>	<p>＜出荷量の安定的な確保＞</p> <p>＜高付加価値農産物の出荷＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所役員会、研修会等の開催：102回（H28～）</li> <li>・直販所利用生産者への堆肥使用の働きかけ（H28～、堆肥の配布量：38.5ト）</li> <li>・山村活性化支援交付金を活用した6次産業化に向けた特産品（サトイモ）の開発（H29）</li> </ul> <p>＜直販体制の拡充・改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所施設及び輸送機材の更新（H28～）</li> <li>・ふるさとセンター（風車の駅）のトイレの洋式化整備（H28 県歴史観光資源補助事業）</li> <li>・輸送トラック（保冷車）の更新（H29）</li> </ul> <p>＜生産者の高齢化対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した集荷所の改修（H28～）</li> </ul> <p>＜満天の星による販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商談会、催事への出展（H28～）</li> <li>・販促イベント：94回、215日（H28～）</li> <li>・商品ラインナップの充実（H28オープン、スライサー、デボジッタの整備）</li> <li>・経営計画改善のため、(株)満天の星へ産振アドバイザー導入（H29）</li> </ul> <p>＜満天の星を拠点とした情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十博、幕末維新博の関連イベントの開催や季節・周年イベント等の開催（H28～）</li> </ul> <p>＜津野町まるごと総合商社化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生推進交付金の活用による商社化スキームや事業計画の検討に着手（H29～）</li> <li>・津野町ブランド調査の実施（2回）（H30）</li> <li>・町内事業者ヒアリングの実施（H30）</li> </ul>	<p>＜出荷量の安定的な確保＞</p> <p>＜高付加価値農産物の出荷＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所会員の確保</li> <li>H30年度末 505人（うち、H30新規会員22人）</li> <li>・サトイモを利用したスープなど新商品の開発</li> </ul> <p>＜直販体制の拡充・改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送トラック（保冷車）の更新により、生鮮品の保持につながった</li> </ul> <p>＜生産者の高齢化対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段差の解消等生産者に配慮した集荷所の改修</li> </ul> <p>＜満天の星による販売促進＞</p> <p>⇒満天の星「土佐の食1グランプリ」10位入賞（H29）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販促活動や自社2店舗の出店、フランチャイズ化（H29～）等に取り組み、商品の売り上げが大幅に増えた</li> </ul> <p>＜満天の星を拠点とした情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十博関連の商品開発（道の駅連携グッズ3件、オリジナル食事メニュー 1件）</li> </ul> <p>＜津野町まるごと総合商社化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内資源をフル活用した生産・商品造成・流通・加工販売などの機能をもたせる商社化スキームや事業計画の検討に着手</li> </ul>
<p><b>33 四万十町拠点ビジネス体制の強化</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>地域資源を有効に活用するため、地産地消や加工品開発販売などを一体的に担うビジネス拠点組織を中心とした仕組みや体制を整備し、地域の活性化や所得の向上を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)あぐり窪川</li> <li>・四万十町</li> <li>・(株)ハマヤ</li> </ul>	<p>＜地域食材、加工品の総合販売ビジネス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域商社等による、独自の加工・販売の取組</li> </ul> <p>＜町内流通体制の整備及び強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産流通システムの構築（H21～H28）</li> </ul> <p>＜外商戦略＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町役場内への「地産外商室」の設置による外商推進体制の整備（H30～）</li> <li>地産外商推進計画の策定（H30.2）</li> <li>商談会等への支援（H30 19回、40社程度）</li> <li>商談会の開催（H30 2回）</li> <li>・四万十町東京オフィスの開設（H30～）</li> </ul> <p>＜運営体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに、(株)ハマヤを実施主体に加えて外商を推進する体制を強化した。</li> </ul>	<p>＜地域食材、加工品の総合販売ビジネス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)あぐり窪川、四万十(株)、(株)四万十ドラマ、(株)ハマヤなど地域商社的な活動をする事業者の活発な活動により地産外商の取組が行われている。</li> </ul> <p>＜町内流通体制の整備及び強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAみどり市への流通、しまんとハマヤへの流通、あぐり窪川への流通など一定の流通経路が整備された。</li> <li>十和おかみさん市の店舗改装（H30 十和地区）</li> </ul> <p>＜外商戦略＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町役場の外商推進体制が整備され、積極的な外商活動が進んでいる。</li> </ul> <p>＜運営体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ハマヤが実施する事業計画などの具体化が一定進んだ。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
直販所総販売額 1.62億円 (H26 : 1.53億円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 1.36億円 (H30年度末)	B	農家の高齢化により、直販所への生産出荷量が減るなか、定期的な勉強会の開催や堆肥の無料配布などの生産支援をおこなうとともに、直販所機能の見直し、各店舗での催事の開催など、地道な対策を続けることにより直販所の販売額の維持につなげている。 また、(株)満天の星による店舗拡大により、満天の星の売上目標を大きく上回り、津野町産品の販売促進に寄与している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買取制度の導入の検討など出荷量の安定的な確保と高付加価値農産物の生産・出荷</li> <li>・町内及び高知市内の直販所機能の在り方の検討</li> <li>・生産者の高齢化対策として、農作業の受委託や担い手の確保</li> <li>・津野町まるごと総合商社化への着実な取り組みと関係者の合意形成</li> </ul>
直販所販売額(高知店3店舗) 1億円 (H26 : 0.91億円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 0.82億円 (H30年度末)	B	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>大規模直販施設「とさのさと」など販売力のある町外直販所への出荷量が増えることにより、町内直販所への出荷量が減少することが懸念される。</p> <p>また、(株)満天の星やふるさとセンターの経営を安定化させ、津野町全体の地産外商ビジネスの強化充実につなげるため、商社化構想の早期実現と事業改善が必要である。</p>	
満天の星売上 2.27億円 (H26 : 1.89億円)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 2.78億円 (H30年度末)	A+		
あがり窪川販売額 4.2億円 (H26 : 2.8億円)	(R元年度末見込) 3.3億円  (直近の実績) 2.81億円 (H30年度末)	A-	<p>販売拠点とした「四万十の蔵」は閉店(H27.5月)となったが、その後野菜などの農産物についてはJAみどり市など町内直販店で引き続き販売されている。</p> <p>十和地域では十和の台所を開業するなど町内での農産物の流通・販売は機能している。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>販売拠点であった「四万十の蔵」閉店後は、四万十町拠点ビジネス事業運営協議会(町主催)が機能していないため、関係者と調整を図る事が困難な状況になっている。</p> <p>H30年度に新たな四万十町の外商戦略(地産外商室の新設など)を追加するも具体的な計画実施に至らなかった。</p>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内外での流通拠点の整備、拠点となる企業との連携の検討</li> </ul>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>34 高幡地域における広域観光の推進</b></p> <p>《高幡地域全域》</p> <p>高幡地域内の観光地、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力をPRすることで知名度の向上及び観光客数の増加を図る。そして、作成された商品を県内外の旅行代理店への営業活動を積極的に展開することで団体旅行の誘致に結び付け、広域への経済効果を波及させていく。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十観光協議会</li> <li>・須崎市</li> <li>・中土佐町</li> <li>・梶原町</li> <li>・津野町</li> <li>・四万十町</li> </ul>	<p>＜観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十観光ガイドブック・広域マップ作成、配布：各3万部（H29）</li> <li>奥四万十観光ガイドブック・広域マップ（改修版）作成、配布：各5万部（R元）</li> <li>・HP改修（H29）、Instagramの開設（H30）</li> <li>・多言語マップの作成「英語版・繁体字版」</li> <li>英語版：5万部、繁体字版：1万部（H30）</li> </ul> <p>＜商品の造成・磨き上げ・セールス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社、メディア・タウン誌等の招聘</li> <li>H30年度：2回</li> <li>・コンベンション協会等とのセールス活動</li> <li>H28年度：10回</li> <li>H29年度：5回</li> <li>H30年度：11回</li> </ul> <p>＜2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016奥四万十博公式HP、公式ガイドブック作成、配布</li> <li>・テレビCM、ラジオ、雑誌、新聞等を活用した広報PR</li> <li>・スタンブラー、レンタカープランなどのキャンペーン企画の実施</li> <li>・奥四万十博協議会理事会：1回</li> <li>本部会：8回</li> <li>部会：4回</li> <li>・奥四万十広域観光推進指針の策定（H28）</li> <li>・奥四万十観光協議会の設立（H29）</li> <li>・奥四万十広域観光振興中期計画の策定（H30）</li> <li>奥四万十観光協議会理事会</li> <li>H30年度：1回</li> <li>R元年度：1回（予定）</li> <li>奥四万十観光協議会推進部会</li> <li>H30年度：3回</li> <li>R元年度：3回（予定）</li> <li>担当者部会</li> <li>H30年度：1回</li> <li>R元年度：6回（予定）</li> <li>・広域観光の推進</li> <li>高知県広域観光推進事業費補助金</li> <li>H28：総事業費：118,845,234円</li> <li>補助金：59,000,000円</li> <li>H29：総事業費：4,034,220円</li> <li>補助金：2,000,000円</li> <li>H30：総事業費：20,286,618円</li> <li>補助金：9,638,000円</li> <li>R元：総事業費：21,266,000円（予定）</li> <li>補助金：10,626,000円（予定）</li> </ul>	<p>＜観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥四万十観光ガイドブック・広域マップの作成、配布やHP・Instagramの活用等により情報発信が強化された。</li> <li>HP閲覧数</li> <li>H29年度：373,981回</li> <li>H30年度：325,256回</li> <li>・多言語マップの作成「英語・繁体字版」により、外国人観光客への受入体制が強化された。</li> </ul> <p>＜商品の造成・磨き上げ・セールス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社招聘ツアーの参加者：大阪府旅行業協会3人（H30）</li> <li>・地域内視察研修モニターの実施や土佐の観光創生塾への参加により、観光商品の造成・磨き上げが進んでいる。</li> <li>⇒H30年度：体験プログラム43件</li> </ul> <p>＜2016奥四万十博開催及び博覧会終了後の広域観光組織の機能強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内、岡山、愛媛、香川などのテレビ局でのTVCMの広告や、ラジオや新聞などのメディアを活用した広報を数多く実施し、県内外での奥四万十博PRにつながった。</li> <li>・ミッション8スタンブラーやレンタカープランなど、様々なキャンペーン企画を実施することにより、エリア内の周遊促進、宿泊増加につながった。</li> <li>・首都圏や関西の旅行会社への営業や観光キャラバンへ参加することで、観光商品の造成・販売につながった。</li> <li>⇒奥四万十博入込数及び経済波及効果（H28.4月～12月）</li> <li>宿泊施設入込数：59,988人（3カ年比：105.9%）</li> <li>主要観光施設入込数：1,837,758人（3カ年比：101.4%）</li> <li>経済波及効果：約13億4,600万円</li> <li>※直接効果＋間接1次波及効果＋間接2次波及効果</li> <li>・2016奥四万十博の際にH27、H28合わせて本部会18回、企画運営部会11回、広報誘客部会12回、受入おもてなし部会11回開催等により、市町との連携強化を図ることができた。</li> <li>⇒広域連携での実施体制が確立され、奥四万十観光協議会の設立につながった。</li> <li>・奥四万十観光協議会の設立、中期計画の策定</li> <li>⇒広域での情報発信や営業体制が整った。</li> <li>・推進部会や担当者部会の開催</li> <li>⇒広域での情報共有ができ、連携が強化された。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
主要観光施設入込客数 2,459,000人 ※うち、 梶原千百年物語り 7,000人 吉村虎太郎邸 4,700人 片岡直樹・直温生家 3,700人  (H26 : 1,954,206人) ※うち、 梶原千百年物語り 4,506人 吉村虎太郎邸 - 人 片岡直樹・直温生家 - 人	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 2,306,990人 (H30 年度末) ※うち、 梶原千百年物語り 7,682人 吉村虎太郎邸 4,654人 片岡直樹・直温生家 4,064人	A	H28年度入込客数は2,346,989人、宿泊者数は72,339人となり、2016奥四万十博の開催に伴い大幅な増加となった。H29年度は前年度比が入込客数が99.9%、宿泊者数が98.5%とそれぞれ減少し、H30年度は豪雨災害や猛暑、台風等の天候不順が、最も来訪者が多い時期と重なりさらに減少となった。宿泊者数はH28年から目標を達成しているが、入込客数は天候不順等により目標未達成となっている。 H29年度に「奥四万十観光協議会」が設立されたことにより、奥四万十博後の広域観光を推進していく組織体制が整備された。H30年度には、奥四万十広域観光振興中期計画を策定し、H31年度から3か年は具体的な行動計画に基づき事業を進め、観光による地域の活性化を図っている。また、推進部会や担当者部会を開催し、広域内での意見交換、情報共有を行い、市町の連携を強化している。 今後は、広域での周遊企画や、県外へのPR活動をさらに強化し、観光施設入込客数や宿泊者数の増加を目指していく。  <課題> 奥四万十観光協議会として発足以来、市町村の枠を超えた広域連携の推進、情報発信、人材育成、ネットワークの構築などに取り組んできた。しかし、まだ途についたばかりであり、取組をさらに推進し、協議会が率先して市町や観光事業者・地域住民等の人的ネットワーク構築と認知度向上に向けた活動を推進する必要がある。	奥四万十観光協議会の推進部会・担当者部会を定期的に開催することで5市町の連携を強化していく。また奥四万十エリア全体のPR、エリア内を巡らせるための周遊プランの造成、強化をしていくことで観光入込客数及び宿泊者数の増加を図っていく。
宿泊者数 51,300人 (H26 : 40,925人)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 68,608人 (H30年度末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>35 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>海洋スポーツを活かした新たな体験型観光の充実を図るとともに、浦ノ内湾を活用した海洋スポーツイベントの開催などを通して交流人口の拡大を目指す。併せて、同時にスポーツ合宿が行える環境の整備を図り、初心者から競技者まで利用できる総合的な海洋スポーツ拠点の実現を目指す。</p> <p>【事業主体】 ・須崎市</p> <p>※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦の内地区水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>＜魅力ある体験メニュー等の導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コモドウラノウチの体験メニュー導入に向けた備品整備（H29.30） 海上アスレチック、サップボード、シーカヤック</li> <li>・コモドウラノウチや海洋スポーツ振興の充実に向けた人員の配置 地域おこし協力隊2名（H30年度～）</li> </ul> <p>＜海洋スポーツイベントの開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すさきオープンウォータースイミングへの国内外有名選手の招聘（H30）</li> </ul> <p>＜スポーツ合宿等の誘致・受入体制の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合宿モニター事業の実施 福井工業大学（H29.11） 日本体育大学（H29.12） 金津高校（H30.12） 京都府カヌー協会（H30.12） 日本体育大学（H30.12）</li> <li>・合宿誘致への営業活動 カヌースプリント海外派遣選手最終選考会参加高校・大学（H29.3、H30.3） ハンガリーカヌー＆カヤック連盟（H29.5） カヌーワールドカップ参加国（H29.5） 日本障害者カヌー協会（H30.3）</li> </ul> <p>＜PRの強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コモドウラノウチHP作成（31.3.8完成）</li> <li>・ホストタウン申請3カ国 オーストリア：H29.5 チェコ：H29.5 ハンガリー：H29.11</li> <li>・市長トップセールスによるチェコカヌー連盟訪問（H30.9）</li> <li>・PR用DVDの作成</li> <li>・合宿誘致パンフレットの作成（H30）</li> </ul> <p>＜施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生拠点整備交付金及び高知県スポーツ推進交付金の活用 坂内カヌー場のバリアフリー化工事（H29.3.27完成） 坂内カヌー場管理棟工事（H30.7.13完成） 大島栈橋設置工事（H29.10.25完成） 大島管理棟新築（H29.9.13完成） 大島親水公園整備工事（H29.12.12完成） トレーニング棟新築工事（H30.10.18）</li> </ul> <p>＜地域の活性化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎市内業者と連携した割引サービスの実施（H30.8.8～H30.8.31）</li> </ul>	<p>＜魅力ある体験メニュー等の導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験メニューの提供に必要な備品整備や人材の確保が図れた。 ⇒コモドウラノウチ利用者数の増加 H29：560名 H30：2,919名</li> </ul> <p>＜海洋スポーツイベントの開催＞（H30.10.21）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本水泳連盟国内認定大会として開催</li> <li>・海外有名選手等3名の招待</li> <li>・計322名の選手（県外参加率69%）</li> <li>・東京五輪日本水泳連盟強化指定選手11名参加 ⇒受入体制の強化が図れた。</li> </ul> <p>＜スポーツ合宿等の誘致・受入体制の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合宿モニターや営業活動、合宿PRパンフレットの送付により、合宿誘致が進み受入体制の強化につながった。 ⇒合宿受入の増加（延べ） H28：33名 H29：953名 H30：1,336名</li> </ul> <p>＜PRの強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌー部やトライアスロンを有する大学や高校からの合宿申し込みにつながった。</li> </ul> <p>＜施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験プログラム、スポーツ合宿、全国規模の大会の開催につながった。</li> </ul> <p>＜地域の活性化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験プログラム利用者が須崎市内へ周遊するルートの形成 H30：24のサービスを提供</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
交流人口 23,000人 (H26 : 16,000人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 20,836人 (H30年度 末)	A	<p>須崎市の策定した海洋スポーツパーク構想に基づき、施設整備などを着実に実施し、年度ごとの目標を確実にクリアしている。令和元年度は海上アスレチックの増設を行い、リピーターや新規利用者の獲得を目指し、PR活動や五輪に向けた受入体制の強化を行う。</p> <p>&lt;課題&gt; 五輪後も海洋スポーツの聖地として教育・スポーツ・観光の拠点となるよう、職員のスキルも含め、サービスや受け入れ体制の強化や更なる広報活動の強化が必要である。</p>	・東京五輪への国内外の合宿や体験メニューによる交流人口の更なる増加に向けた受入体制の充実強化・PR営業活動の強化。



項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>36 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備</b></p> <p>《須崎市》</p> <p>須崎市への教育旅行や団体旅行を増やすため、地域資源を活かした体験メニューの充実、民泊受入世帯の拡大を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎市観光協会</li> <li>・NPOすさきスポーツクラブ</li> </ul> <p>※地域産業クラスター関連（宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト）</p>	<p>＜観光協会の体制づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化に向けた職員の雇用（H31.4月から1名）</li> <li>（R元.10月1日に法人化予定、須崎市から法人化に合わせて担当1名派遣）</li> </ul> <p>＜民泊研修会の開催・体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣市町村も含めた研修会の実施（H30）</li> <li>・市内の地区組織への説明実施（H29～）</li> <li>・人材育成も踏まえた須崎市との定期的な状況共有（H30～）</li> </ul> <p>＜県観光CV協会、他地域のコーディネート組織と合同の団体・教育旅行誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する土佐市及び土佐市内隣接地区と、須崎市への教育旅行者の民泊受入に向けて検討を行った。</li> <li>・市と協力した宇佐・浦ノ内渚泊推進協議会の設置（H29）</li> </ul>	<p>＜観光協会の体制づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化に向けての準備が整った。</li> </ul> <p>＜民泊研修会の開催・体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成研修会の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊受入世帯の増加 H26：97 H30：130</li> <li>・民泊に対する地区組織の協力 安和地区、浦ノ内地区での地区単位の住民組織から受入世帯増加に向けた協力を得られた。 ⇒民泊の受入体制の充実が図れた。</li> </ul> <p>＜県観光CV協会、他地域のコーディネート組織と合同の団体・教育旅行誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐市及び土佐市内隣接地区への民泊受入世帯の拡充が図れた。</li> <li>・地域の魅力をPRするため、Instagram等SNSを用いた広報活動を協議会が今後実施していくこととなった。</li> </ul>
<p><b>37 中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進</b></p> <p>《中土佐町》</p> <p>観光拠点施設を設置し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、重要文化的景観を活かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、中土佐町における交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中土佐町</li> </ul>	<p>＜体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金の活用（H29）</li> <li>パンフレット作成、まちあるきマップ作成、備品整備</li> <li>・イベントと連携した体験プログラムのPR及び誘客</li> <li>海鮮祭り：2,500人（H30）</li> <li>カツオ祭り：17,000人（H30）</li> <li>大野見しんまいフェスタ：1,500人（H30）</li> <li>久礼八幡宮秋季大祭：12,000人（H30）</li> <li>上ノ加江黒潮ふれあい祭り：1,500人（H30）</li> </ul> <p>＜誘客に向けた情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かつお祭り等イベントにおける情報発信</li> <li>・道の駅（H29.7OPEN）における観光情報の発信（パンフ・SNS）</li> </ul> <p>＜観光拠点施設の設置及び運営＞</p> <p>観光拠点施設「ぜびあ」整備（H28）</p>	<p>＜体験プログラムの造成・磨き上げ及び人材育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験受入数 H29：4,041人→H30：3,523人 （内訳：H30） 久礼の町歩き：109人 上ノ加江漁業体験：1,343人 矢井賀釣りいかだ：2,071人</li> </ul> <p>＜誘客に向けた情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや道の駅ブログ・SNS等を活用し、より広く情報発信ができた。</li> <li>Facebook いいね数 749人（6/24現在） Instagram フォロワー数 1,263人（6/24現在）</li> </ul> <p>＜観光拠点施設の設置及び運営＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点施設「ぜびあ」にイートインスペースを設けたことで、大正町への観光客の利便性が高まった。 ⇒滞在時間の延長につながった。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
民泊受入世帯数 200世帯 (H26 : 97世帯)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 130世帯 (H30年度末)	A－	民泊における体験用備品の老朽化や機材の数量から人数受入に一定の制限があること、観光協会の担当が1名であったことから、受入と広報活動のいずれかに手一杯であった。そのため、民泊受入世帯数及び教育旅行受入数ともにH26から増加しているものの、目標には到達していない状況である。  <課題> R元.10.1の法人化に伴い、職員が1名増となることから、早期に組織強化を図る必要がある。これまで1名で行っていた民泊受入対応や広報活動等の負担を分散させることで、民泊受入体制確保と広報活動の更なる強化を行う必要があり、須崎市と協議を行いながら支援していく必要がある。	受入世帯確保に向けた説明会と広報活動について、担当者増により十分な活動が行うことができるよう、人材育成や組織力強化の支援や助言を検討していく。 人材と組織を両面から早期に強化する必要があるので、観光に関するアドバイザーや組織構築に関するアドバイザーの提案を行い、法人化後の円滑な運営に向けたサポートを行う。
教育旅行受入数 5,000人 (H26 : 2,412人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 3,365人 (H30年度末)	A－	特に、現在の受入世帯数に対する旅行者の数は限界を迎えており、受入世帯数の増加に向けた地域への活動を行う必要が有る。	
体験受入数 4,000人 (H26 : 3,717人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 3,523人 (H30年度実績)	B	観光拠点施設「ぜよびあ」のオープンにより、情報発信の拠点ができたことに加え、新たに「道の駅なかとさ」がオープンしたことで、中土佐町への誘客に弾みがついた。 体験受入はH30年度は夏場の長雨等の落ち込みで目標値には至らなかったものの、H29年度実績(4,041人)はR元年度の目標値を既に上回っており、堅調な実績となっている。また、宿泊者数も14,010人と目標値を上回る実績を上げている。	・かつお祭り等、集客が見込めるイベント継続のために運営体制の見直しの検討をしていく。 ・紙媒体中心の観光情報について、電子媒体にすることを検討する。
宿泊者数 13,800人 (H26 : 12,890人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 14,010人 (H30年度末)	A＋	<課題> ・中土佐町への誘客のメインイベントである「カツオ祭り」について、現状の実行委員会組織と開催内容では限界にきており、開催方法についての検討が必要。 ・町を周遊できる仕組みづくりやインバウンド対策を含めた情報発信が十分でない。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>38 梶原町の体験型・滞在型観光の推進</b></p> <p>《梶原町》</p> <p>「龍馬脱藩の郷」としての取り組みを継続しつつ、まち歩きやセラピーロードをはじめとした体験型観光、住民主体のおもてなし・受入体制や基盤の一層の充実を図り、環境・いやしのまち梶原の取り組みと併せて旅行会社、企業、大学などへの誘致活動を行い、体験型・滞在型観光を推進する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町商工会</li> <li>・梶原町</li> <li>・松原まろうど会</li> <li>・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会</li> </ul>	<p>&lt;体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町立歴史民俗資料館2階のリニューアルオープン（H29）</li> <li>・実施事業者が観光創生塾に参加（H30）</li> <li>・観光案内施設まろうど館及び梶原千百年物語り前駐車場の整備</li> </ul> <p>&lt;誘客活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社への誘客活動（通年）</li> <li>・「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施</li> </ul> <p>&lt;森林セラピーの受入体制の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町観光クラスター協議会開催（H30：3回）</li> <li>・久保谷森林セラピーロードでの新緑祭り</li> <li>・久保谷森林セラピーロードパンフレットを多言語化等のリニューアル</li> </ul> <p>&lt;受入基盤の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県観光拠点等整備事業を活用し、久保谷セラピーロードの増水時にも安全に渡る事ができる架橋建設実施</li> </ul>	<p>&lt;体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原千百年物語りのPR</li> </ul> <p>⇒梶原千百年物語り入込数（H29：6,459人⇒H30：7,682人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆすはらグルメまつり時には、広くなった駐車場を活用し、スイーツコーナーを開設する等梶原町のイベントにも活用。</li> </ul> <p>&lt;誘客活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社への「環境の町」「龍馬脱藩の里」「セラピー基地・ロードによるいやしのまち」等を前面に出した旅行会社、企業、大学等へのセールスを実施することにより、観光客（団体）が増加した。</li> </ul> <p>&lt;森林セラピーの受入体制の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶原町観光クラスター協議会において、セラピーロードのPRについて意見を出し合い、新しいPRパンフレットに反映させた。</li> </ul> <p>&lt;受入基盤の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久保谷セラピーロードに架かる架橋について現在建設中（R元年度完成予定）</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
宿泊者数 8,265人 (H26 : 6,841人)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 8,285人 (H30年度末)	A+	H28に開催した幕末維新博の開催に合わせ、地域会場であった「栲原千百年物語」の2Fをリニューアルしたことにより、入館者が増加した。また、龍馬脱藩ウォークや脱藩マラソン等、幕末維新の歴史ある町を活かしたイベントの継続した展開により、周知もされ、多くの参加者が町を訪れた。	栲原町の観光として、磨き上げた観光資源を総合的にコーディネートし、外向けにも発信すること及び受入体制の充実を図るため、観光協会の設立を検討する。
施設利用者数 97,500人 (H26 : 82,582人)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 105,814人 (H30年度末)	A+	<課題> 栲原町の観光として、観光資源（龍馬脱藩の道やセラピーロード、カルスト等）をつなぐ組織がない。 まろうどん館を観光案内施設としているが、他の観光資源とつなぐ役割が十分でなく相乗効果が発揮できていない。 こうしたことから、近年増加している個人観光客の満足度を上げる取組になっていない。	

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>39 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～</b></p> <p>《津野町》</p> <p>四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした津野町の観光スポットと歴史や伝統文化、地域の食など津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図る。</p> <p>【事業主体】 ・津野町</p>	<p>＜受入れ体制の整備＞ 歴史観光資源等強化事業費補助金の活用による体制整備 ・天体観測望遠鏡等の整備（H27） ・観光ガイド養成（H28～） ・観光スポットの整備 FreeWi-Fiの整備（H28～30：道の駅、カルスト学習館など8箇所） トイレの洋式化（葉山の郷など、5箇所） ・イベント企画・開催 ・観光推進組織設置に向けた検討 H30 観光アドバイザーの導入、R元～観光推進組織の検討</p> <p>＜観光商品の造成・磨き上げ及び情報発信の強化＞ ・観光キャンペーンと連動したイベントや体験プログラムの磨き上げ・拡充（H28～31） ・「志国 高知幕末維新博」を契機とした歴史観光拠点の整備 吉村虎太郎邸及び片岡直輝・直温生家のリニューアル、周辺歴史資源の磨き上げ等（H29歴史観光資源等強化事業費補助金） トウトウクの導入による乗車体験、レンタカーの実施（H28～） メディアへの情報発信（youtube、Facebook、Instagram、ラジオなど）（H28～） 英語版津野町ガイドブックの作成（H29） ・牧野植物園との連携したイベント等の開催（H29～） 天狗荘での企画展・散策イベント・茶講座等の開催、散策の樹木プレートの設置（85箇所）等</p> <p>＜津野町の観光施策策定及び観光基盤の整備＞ ・観光の二大重点プロジェクトへの着手（天狗荘、せいらんの里のリニューアル）</p>	<p>＜受入れ体制の整備＞ ・観光ガイド登録人数 22人（H30） ⇒観光ガイド料金の統一化などにより、体制が強化された</p> <p>＜観光商品の造成・磨き上げ及び情報発信の強化＞ ・奥四万十博、志国高知 幕末維新博、高知県自然・体験キャンペーンを機に、体験プログラムの造成や情報発信を充実をはかり、観光客の増加を図ることができた。 ⇒体験プログラム数 H27：2件→H30：14件 ⇒天狗荘外国人宿泊客の増 H27：106人→H30：323人 ・牧野植物園との連携により、四国カルストでの固有植物の展示会など、津野町の自然環境のPRや環境保全が図れた。 ・歴史観光拠点の整備や周辺歴史資源の磨き上げ等により、幕末の志士輩出の地としての認知度向上及び誘客が図れた。 ⇒吉村虎太郎邸 H27：2,107人→H30：15,137人 片岡直輝・直温生家（H30.4月リニューアルオープン） H28：1,412人 →H30：6,795人</p> <p>＜津野町の観光施策策定及び観光基盤の整備＞ ・天狗高原・四万十川源流点活性化プロジェクト協議会を発足し、協議会（H30末までに5回）を開催するとともに、津野町観光振興計画を策定した（H30.7月）</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
主要宿泊施設年間宿泊数 10,710人 (H26 : 8,114人)	(R元年度末見込) -  (直近の実績) 10,950人 (H30年度末)	A+	<p>観光拠点の施設整備やPR強化、体験プログラムの造成などの取り組みが功を奏し、地域の認知度向上につながるとともに、宿泊者数や入込者数が増加した。特に天狗荘では、H27年度に導入した望遠鏡等をつかったスターウォッチングを毎夜開催し、星目当ての宿泊客、リピーターが増えており外国人観光客がH27の3倍に増えるなど、新たな客層の獲得に効果が見られた。</p> <p>&lt;課題&gt; さらなる観光客の受入を図るため、ガイド人材の育成や体験プログラムの磨き上げ、ご当地グルメの開発など、資源の活用と体制強化を図る必要がある。また、天狗荘、せいらんの里のリニューアルを好機ととらえ、おもてなし力の強化と新たなビジネスの掘り起こしや周遊ルートづくりをおこなうとともに、広域連携や観光に関する窓口の一本化を図るための観光推進組織の立ち上げが求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門ガイドを活用した養成講座の実施による有料観光ガイドの養成とスキルアップ</li> <li>・拠点施設や体験プログラムの磨き上げとターゲット層を捉えたこまめな情報発信</li> <li>・地域おこし協力隊など観光拠点施設の担い手人材の確保</li> <li>・町内観光事業者と連携した観光推進組織の立ち上げ</li> </ul>

項目名及び事業概要	具体的な取組	具体的な成果
<p><b>40 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>「海洋堂ホビー館四万十」の校舎等を企画展示や体験教室として整備し、四万十町の観光拠点としてブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町全体の魅力ある資源を有効に組み合わせ更なる観光交流人口の拡大を図る。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町</li> <li>・(株)海洋堂</li> <li>・(株)奇想天外</li> </ul>	<p>＜海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2駐車場内への簡易水洗トイレの設置 (H28)</li> </ul> <p>＜ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展開催・イベント開催 (年3回)</li> <li>・海洋堂造形型怪獣総進撃他2回 (H28)</li> <li>・これが海洋堂だ展他2回 (H29)</li> <li>・アートプラ大賞展他2回 (H30)</li> <li>・北斗の拳フィギュア列伝他2回 (令元)</li> <li>・GW・夏休みのステージイベント</li> <li>・ピング大会・ステージイベントの開催</li> <li>・宣伝広告</li> <li>・SNSの更新・幕張メッセ・観光施設へのチラシ配布 (通年)</li> <li>・インバウンド商談・外国船オブショナルツアーへPR (H29)</li> <li>・連休期間の取組で、地元女性部「谷小家」の惣菜販売等の協力が得られた。</li> <li>・かっぱ館や地元との連携による「かっぱ祭り」の開催との連携が図られた。</li> </ul>	<p>＜海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールデンウィークや夏休み期間中の繁忙期の来客者の受入の円滑化や利便性向上が図られた。</li> </ul> <p>＜ミュージアム機能及び体験交流機能の強化充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催やGW、春・夏休み向けのイベント開催により、入館者減に一定の歯止めをかけることが出来た。</li> <li>・企画展「北斗の拳フィギュア列伝」の開催では、「海洋堂ホビー館」が町と観光協会と連携して「四万十町内周遊企画」などに取り組み、前年同期 (4月～5月) 入館者数を大きく上回ることが出来た (166%)。</li> <li>・地元女性部や、「カッパ館」等との連携により、イベント全体の充実が図られた。</li> <li>・常勤雇用者数の目標人数の5人を上回る7人の雇用を維持しており、地域の雇用に貢献している。</li> </ul>
<p><b>41 四万十町観光交流促進事業</b></p> <p>《四万十町》</p> <p>高速道路の延伸や海洋堂ホビー館四万十の整備を踏まえ、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化などに磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。</p> <p>【事業主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町</li> <li>・(一社)四万十町観光協会</li> <li>・四万十町商工会等</li> </ul>	<p>＜受入体制の充実・整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント民泊の実施 (H29～)</li> <li>・四万十川桜マラソン (H30 : 13軒21名)</li> <li>・四万十川ウルトラマラソン (H30 : 10軒13名)</li> <li>・文化的施設構想の検討 (H29～)</li> <li>・高校生の観光ガイド育成プログラム実施 (H29)</li> <li>・H29 : 0名→39名(年2回実施)</li> <li>・H30 観光拠点整備事業費補助金</li> <li>・まち歩き磨き上げ事業 (観光ガイド育成、町内周遊ルートの作成)</li> </ul> <p>＜観光資源の造成・磨き上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型プログラムの造成・磨き上げ</li> <li>・観光基本構想や基本計画の策定</li> <li>・H30 観光拠点整備事業費補助金</li> <li>・まち歩き磨き上げ事業 (ガイドブック作成、看板設置)</li> <li>・窪川地区自然体験型観光推進事業 (タンDEM自転車導入、トレッキング用看板設置 等)</li> <li>・志和地区自然体験型観光推進事業 (ダイビング資材整備、トイレ改修 等)</li> <li>・大正・十和地区自然体験型観光推進事業 (ラフティング資材整備、キャンプ場計画策定 等)</li> </ul> <p>＜情報発信力の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内板等の設置</li> <li>→町内3つの道の駅 : 電光掲示板</li> <li>→主要施設5箇所 : 観光案内板</li> <li>→町内複数箇所 : まちあるき用案内板</li> <li>・観光協会が道の駅での観光案内開始</li> <li>・観光協会HPリニューアル</li> <li>・自然体験型推進ホームページ作成事業 (H30)</li> <li>・各種ガイドブック刷新</li> </ul>	<p>＜受入体制の充実・整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント民泊の実施により、県外や国外など多様な参加者の受け入れが可能になった。</li> <li>⇒四万十川桜マラソンの参加者の属性</li> <li>・H29 : 37都道府県 (1,370名)</li> <li>→H31 : 42都道府県、海外 (1,358名)</li> <li>・「四万十町文化的施設基本構想」を策定 (H31.3)</li> <li>・食べ歩きを組み込んだまち歩きや限定土産付の新たなコース設定など、滞在時間の延長や周遊促進を図った。</li> </ul> <p>＜観光資源の造成・磨き上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型プログラムの造成・磨き上げ等を行ったことで、徐々に利用者が増加している。</li> </ul> <p>＜情報発信力の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内主要施設への観光案内板等の設置により観光客の利便性に寄与した。</li> </ul>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (出発点)	令和元年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
ホビー館の入館者数 50,000人 (H26 : 44,033人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 27,320人 (H30年度末)	B	入館者数が年々減少しているなか、年3回の企画展やGW・夏休みイベントの開催により、入館者の維持に努めている。 平成30年度からは、四万十町や町観光協会等との連携協力態勢も図られてきており、町全体としての取組となってきている。  <課題> ・来館者の満足度アップの為の仕掛け作り（滞在時間の延長） ・ホビー館施設の老朽化等による施設の改修が必要である ・集客力のある企画展・町周遊企画（スタンプラリー）の開催等による誘客及びリピーターの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホビー館の改修</li> <li>・魅力ある企画展、イベントの開催や町周遊企画の開催</li> <li>・町内の学校（小・中）での体験教室の開催や予土線を活用した集客とPR</li> </ul>
常勤雇用者数 5人 (H26 : 5人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 7人 (H30年度末)	A +		
施設等利用者数 90万人 (H26 : 67万人)	(R元年度末見込) －  (直近の実績) 94.8万人 (H30年度末)	A +	役場、商工会、観光協会が連携し、年度ごとに補助事業を上手く活用して、町内の施設整備や案内板設置を行い、町内の宿泊・観光施設の利用者数の増加や、体験プログラムの発掘・磨き上げにつながった。  <課題> 観光素材やそれらを活かすアイデア等揃っているのに、それらを実施する人材及び観光協会のスタッフの確保が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の造成・磨き上げ（自然体験型観光キャンペーン等）については、H30、R元年度と積極的に観光補助金の活用などにより進みつつあり、また各地域の観光基本構想や基本計画が策定されてきているので、そういった計画を元にハード、ソフト両面での整備を行っていく。</li> <li>・自然体験型観光などの現場でのプレイヤーや、観光協会スタッフの人材の確保を関係機関とともに図っていく。</li> </ul>